

1. PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **09-297736**

(43)Date of publication of application : **18.11.1997**

(51)Int.Cl.

G06F 15/00

G06F 3/14

G06F 13/00

(21)Application number : **08-343551**

(71)Applicant : **SUN MICROSYST INC**

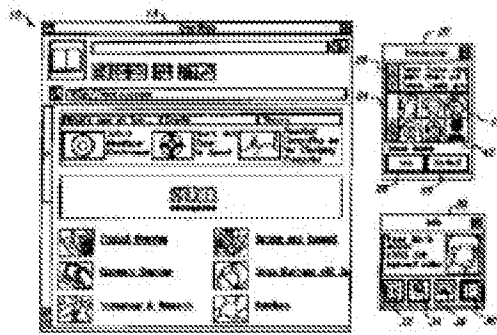
(22)Date of filing : **24.12.1996**

(72)Inventor : **TANG JOHN
ISAACS ELLEN
MORRIS TREVOR
RODRIGUEZ THOMAS
RUBERG ALAN
LEVENSON RICK**

(30)Priority

Priority number : **95 577728** Priority date : **22.12.1995** Priority country : **US**

**(54) SYSTEM AND METHOD FOR ENABLING RECOGNITION OF EXECUTION OF
SIMILAR TASK IN COMPUTER JOB ENVIRONMENT BY OTHER INDIVIDUAL**



(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily start various types of communications between each employee and the other employees by selecting a 2nd user according to a 1st relation between 1st and 2nd data.

SOLUTION: An encounter window 20 is cyclically updated with the task proximity of a new employee with respect to a current worker and the loss of task proximity by the other employees. Since the contents of the current worker or the other employees are switched between applications, the encounter window 20 is updated and at that time, an icon 22 of employee of the task proximity is displayed to the current worker. When an employee working with a remote computer obtains task proximity to the current worker by using a certain application, the encounter window 20 issues the same visual/audio sign, and the icon 22 corresponding to that employee appears inside the encounter window 20.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-297736

(43) 公開日 平成9年(1997)11月18日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/00	3 9 0		G 0 6 F 15/00	3 9 0
	3 3 0		3/14	3 3 0 A
	3 5 5		13/00	3 5 5

審査請求 有 請求項の数32 O L 外国語出願 (全 69 頁)

(21) 出願番号 特願平8-343551

(22) 出願日 平成8年(1996)12月24日

(31) 優先権主張番号 5 7 7 7 2 8

(32) 優先日 1995年12月22日

(33) 優先権主張国 米国 (U S)

(71) 出願人 597004720

サン・マイクロシステムズ・インコーポレ
ーテッドSun Microsystems, In
c.アメリカ合衆国カリフォルニア州94043-
1100, マウンテン・ビュー, ガーシア・ア
ヴェニュー 2550, エムエス・ピーエイエ
ル1-521

(72) 発明者 ジョン・タン

アメリカ合衆国カリフォルニア州94306,
パロ・アルト, フラワーズ・レーン 3126

(74) 代理人 弁理士 湯浅 森三 (外6名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンピュータ業務環境において類似のタスクを行っている他人の認識を可能にするシステム及び方法

(57) 【要約】

【課題】 多数のコンピュータから構成される環境において、自分とタスク近接である他のユーザとの交流を容易にすること。

【解決手段】 他のユーザに関する情報が、それぞれのコンピュータのユーザ・インターフェース・ウィンドウに表示され、そのコンピュータ上で作業しているユーザとタスク近接であるそれぞれのユーザの視覚的な表現が示される。この情報を与える例示的なシステム・アーキテクチャは、それぞれの表し、そのユーザの視覚的な表現を記憶するパーソン・オブジェクトを含む。それぞれのコンピュータ・ディスプレイ上のエンカウンタ・ウィンドウ(20)が視覚的な表現を与える。

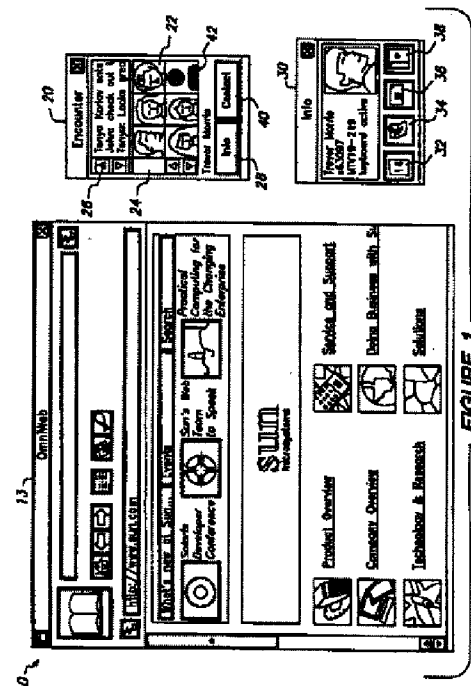


FIGURE 1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のユーザのためのコンピュータ・システムであって、第1のユーザに、前記第1のユーザにタスク近接(task proximate)な選択された第2のユーザの視覚的な表現を提供するコンピュータ・システムにおいて、

それぞれが複数の実行可能なアプリケーションを有する、複数のコンピュータを備えており、

前記複数のコンピュータの中の1つが、第1のユーザの第1のコンピュータであり、前記第1のコンピュータは、第1のデータにアクセスする第1のアプリケーションを有し、

前記複数のコンピュータの残りのコンピュータは、それぞれが、第2のユーザの第2のコンピュータであり、前記第2のコンピュータは、それぞれが、第2のデータにアクセスする第2のアプリケーションを有し、

前記第1のコンピュータは、任意の第1のアプリケーションに対して、選択された第2のユーザの視覚的な表現を表示する第1のユーザ・インターフェース・ディスプレイを有し、前記第2のユーザは、それぞれが、前記第1のデータと第2のデータとの間の第1の関係に従って選択される、ことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項2】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のデータと前記第2のデータとの間の前記第1の関係は、前記第1のデータが前記第2のデータと同一である場合を含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項3】 請求項2記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のデータと前記第2のデータとの間の前記第1の関係は、更に、前記第1のアプリケーションによる前記第1のデータへのアクセスは前記第2のアプリケーションによる前記第2のデータへのアクセスから所定の長さの時間内である場合を含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項4】 請求項2記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のデータと前記第2のデータとの間の前記第1の関係は、更に、前記第1のアプリケーションによる前記第1のデータへのアクセスは前記第2のアプリケーションによる前記第2のデータへのアクセスと実質的に同時である場合を含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項5】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、それぞれのアプリケーションはタイプを有しており、それぞれの第2のユーザは、更に、前記第1のユーザによって用いられている前記第1のアプリケーションのタイプと前記第2のユーザによって用いられている前記第2のアプリケーションのタイプとの間の第2の関係によって選択されることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項6】 請求項5記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第2の関係は、前記第1のアプリケーションが前記第2のアプリケーションと同じアプリケーション・タイプを有する場合を含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項7】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、それぞれの第2のユーザは、更に、前記第1のユーザによって用いられている前記第1のアプリケーションが前記第2のユーザによって用いられている前記第2のアプリケーションと同一であることに従って選択されることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項8】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のデータは第1のファイル・ディレクトリに記憶された第1のデータ・ファイルであり、前記第2のデータは第2のファイル・ディレクトリに記憶された第2のデータ・ファイルであり、前記第1の関係は、更に、前記第1のファイル・ディレクトリと前記第2のファイル・ディレクトリとが同一である場合を含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項9】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、それぞれの選択された第2のユーザに対して、前記第1のユーザの視覚的な表現を表示する第2のユーザ・インターフェース・ディスプレイを有する前記第2のユーザの第2のコンピュータを含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項10】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、

それぞれのコンピュータは、2人のユーザのそれぞれに関連するデータを比較するように構成された少なくとも1つの機能的要素を含み、それに応答して、前記データが前記第1の関係を有するかどうかを示す信号を提供することを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項11】 請求項10記載のコンピュータ・システムにおいて、前記機能的要素は、更に、第1のアプリケーションのアプリケーション・タイプと第2のアプリケーションのアプリケーション・タイプとを比較し、それに応答して、前記第1及び第2のアプリケーションが同じタイプであるかどうかを示す信号を提供するように構成されていることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項12】 請求項1記載のコンピュータ・システムにおいて、第2のユーザの視覚的な表現は、前記第1のユーザが前記第1の関係に従って前記第2のユーザにタスク近接になるのと実質的に同時に前記第1のユーザ・インターフェース・ディスプレイに付加され、第2のユーザの視覚的な表現は、前記第1のユーザが前記第1の関係に従って前記第2のユーザにもはやタスク近接でないと決定されるのと実質的に同時に前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイから除去されることを特徴とする

るコンピュータ・システム。

【請求項13】 複数のユーザのためのコンピュータ・システムであって、第1のユーザに、選択された第2のユーザの視覚的な表現を提供するコンピュータ・システムにおいて、

それぞれが複数の実行可能なアプリケーションを有する、複数のコンピュータを備えており、それぞれのアプリケーションはタイプを有し、

前記複数のコンピュータの中の1つが、第1のユーザの第1のコンピュータであり、前記第1のコンピュータは、第1の時間に第1のデータにアクセスする第1のアプリケーションを有し、

前記複数のコンピュータの残りのコンピュータの中の1つは、それぞれが、第2のユーザの第2のコンピュータであり、前記第2のコンピュータは、それぞれが、第2の時間に第2のデータにアクセスする第2のアプリケーションを有し、

前記第1のコンピュータは、任意の第1のアプリケーションと任意の第1のデータとに対して、前記第1のユーザにタスク近接な選択された第2のユーザの視覚的な表現を表示する第1のユーザ・インターフェース・ディスプレイを有し、前記選択された第2のユーザは、それぞれが、

前記第1のデータと前記第2のデータとの間の第1の関係と、

前記第1のアプリケーションのタイプと前記第2のアプリケーションのタイプとの間の第2の関係と、

前記第1の時間と前記第2の時間との間の第3の関係と、

を含むグループからの少なくとも1つの関係に従って、前記第1のユーザにタスク近接であるかどうか個別に決定されることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項14】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のデータが前記第2のデータと同一である第1の関係の場合に第1のユーザは第2のユーザにタスク近接なことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項15】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のアプリケーションのタイプが前記第2のアプリケーションと同一である第2の関係の場合に第1のユーザは第2のユーザにタスク近接なことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項16】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のユーザが前記第1のアプリケーションを用いる第1の時間が、前記第2のユーザが前記第2のアプリケーションを用いる第2の時間に対して所定の長さの時間内にある第3の関係の場合に第1のユーザは第2のユーザにタスク近接なことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項17】 請求項13記載のコンピュータ・シ

テムにおいて、前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイは、前記第1のユーザにタスク近接なすべての第2のユーザに第1の視覚的表現を提供し、他のどのユーザも前記第1のユーザにタスク近接でないときには第2の視覚的表現を提供する動作の第1のモードを含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項18】 請求項17記載のコンピュータ・システムにおいて、

前記第1のコンピュータの前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイは、更に、少なくとも1人の第2のユーザが前記第1のユーザにタスク近接であるかどうかに関する視覚的表現だけを提供する動作の第2のモードを含み、

それぞれの第2のコンピュータの前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイは、前記第1のコンピュータの前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイが動作の前記第2のモードにあることを示す前記第1のユーザに関する視覚的表現を表示することを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項19】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、

第2のユーザの第2のコンピュータを更に含んでおり、前記第2のコンピュータは、前記第1のユーザが前記第2のユーザにタスク近接であるという前記第1のユーザに関する視覚的表現を含むユーザ・インターフェース・ディスプレイを有し、前記第1のユーザに関する前記視覚的表現は、前記第1のコンピュータのユーザ・インターフェース・ディスプレイの表示モードの関数であることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項20】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、前記第1のユーザが前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイにおける視覚的表現によって表される第2のユーザへの通信を開始することを可能にする通信メカニズムを更に含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項21】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、第2のユーザが前記第1のユーザに対してタスク近接になる度に第1の聴覚的な指示が提供され、第2のユーザが前記第1のユーザに対してもはやタスク近接でなくなる度に第2の聴覚的な指示が提供されることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項22】 請求項13記載のコンピュータ・システムにおいて、それぞれのコンピュータは、更に、選択された時間にユーザがアクセスしているデータを含む位置を特定するメッセージであって、前記ユーザが位置を変更するおおよその時間に、アクティブなアプリケーションによって提供されるメッセージを提供することができると少なくとも1つのアプリケーションと、

第1のユーザの第1の位置と第2のユーザの第2の位置とを比較して前記第1及び第2のユーザは相互にタスク

近接であることを示す信号を提供する少なくとも1つの一致オブジェクトと、

を備えており、前記第1の位置は、前記第1のデータ、前記第1のアプリケーション、及び前記第1の時間を含み、前記第2の位置は、前記第2のデータ、前記第2のアプリケーション、及び前記第2の時間を含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項23】 請求項22記載のコンピュータ・システムにおいて、

それぞれが、このコンピュータ・システムのユーザと一意的に関連し、前記ユーザ・インターフェース・ディスプレイにおいて表示されることのできる視覚的表現を有する、複数の個人オブジェクトを更に含むことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項24】 請求項1ないし請求項23の中の任意のコンピュータ・システムにおいて、それぞれの選択された第2のユーザの前記視覚的表現は、周期的に更新され、前記第2のユーザの利用可能性の現在のレベルを示すことを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項25】 請求項1ないし請求項24の中の任意のコンピュータ・システムにおいて、前記選択されたユーザの視覚的表現の更新は、利用可能性の第1のレベルと関連する第1の視覚的表現を、利用可能性の第2のレベルと関連する第2の視覚的表現によって代替することを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項26】 請求項1ないし請求項25の中の任意のコンピュータ・システムにおいて、前記第1の視覚的表現は、前記第2の視覚的表現に、徐々に視覚的に変換されることを特徴とするコンピュータ・システム。

【請求項27】 それぞれのユーザがインターフェース・ディスプレイを有するディスプレイ装置を有する、複数のユーザのためのコンピュータ・システムで、第1のユーザにタスク近接である第2のユーザの認識を提供する、コンピュータによって実現される方法において、前記第1のユーザのために、前記第1のユーザが用いている第1のアプリケーションにおける第1の位置を決定するステップと、

前記第2のユーザのために、前記第2のユーザが用いている第2のアプリケーションにおける第2の位置を決定するステップと、

前記第1の位置が前記第2の位置にタスク近接であるかどうかを判断するステップと、

前記第1の位置が前記第2の位置にタスク近接であることに応答して、それぞれのユーザのために、それぞれのユーザに関連するインターフェース・ディスプレイにおいて、他方のユーザの視覚的表現を表示するステップと、

それぞれのユーザのために、前記ユーザの視覚的表現を周期的に更新して、前記ユーザの利用可能性の現在のレベルを示すステップと、

を含むことを特徴とする方法。

【請求項28】 請求項27記載の方法において、選択されたユーザの視覚的表現を周期的に更新するステップは、

利用可能性の第1のレベルと関連する第1の視覚的表現を、利用可能性の第2のレベルと関連する第2の視覚的表現によって代替するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項29】 請求項27記載の方法において、前記第1の位置が前記第2の位置にタスク近接であるかどうかを判断するステップは、

前記第1の位置において特定された第1のデータと前記第2の位置において特定された第2のデータとの比較と、

前記第1の位置において特定された第1のアプリケーションと前記第2の位置において特定された第2のアプリケーションとの比較と、

前記第1の位置において特定された第1のアプリケーションのタイプと前記第2の位置において特定された第2のアプリケーションのタイプとの比較と、

前記第1の位置において特定された第1の時間と前記第2の位置において特定された第2の時間との比較と、

を含む比較群の中の少なくとも1つを更に含むことを特徴とする方法。

【請求項30】 請求項27記載の方法において、前記第1のデータと第2のデータとは、少なくとも1つのディレクトリ構造の中のデータ・ファイルであり、前記第1の位置において特定された第1のデータと前記第2の位置において特定された第2のデータとを比較するステップは、前記第1のデータ・ファイルが前記第2のデータ・ファイルと同じディレクトリ・レベルにあるかどうかを判断するステップを更に含むことを特徴とする方法。

【請求項31】 請求項27記載の方法において、前記第1のユーザの位置が前記第2のユーザの位置にもはやタスク近接ではなくなるような前記第1のユーザの位置の変化に応答して、前記第1のユーザの視覚的表現を前記第2のユーザのインターフェース・ディスプレイから除去するステップと、前記第2のユーザの視覚的表現を前記第1のユーザに関連するインターフェース・ディスプレイから除去するステップと、を更に含むことを特徴とする方法。

【請求項32】 複数のユーザのためのコンピュータ・システムにおける、第1のユーザの第1のコンピュータによってアクセス可能なコンピュータ可読なメモリにおいて、前記第1のコンピュータは、プロセッサと表示装置とを有し、このメモリは、第1のユーザにタスク近接である第2のユーザの認識を第1のユーザに提供する前記プロセッサによって実行可能な少なくとも1つのコンピュータ・プログラムを記憶しており、前記コンピュ

タ・プログラムはプロセッサを制御して、前記第1のユーザのために、前記プロセッサ上で実行されている第1のアプリケーションにおける第1の位置を決定し、第2のユーザに前記第2のユーザが用いている第2のアプリケーションにおける第2の位置を示す信号を受け取り、前記第1の位置が前記第2の位置にタスク近接であるかどうかを判断し、前記第1の位置が前記第2の位置にタスク近接であることに応答して、前記第2のユーザの視覚的表現を、前記第1のユーザのコンピュータに関連するインターフェース・ディスプレイにおいて表示することを特徴とするコンピュータ可読なメモリ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【関連出願】この出願は、「分散したワークグループ構成員へのアクセスを可能にするコンピュータ・ユーザ・インターフェースを提供するシステム及び方法」(System and Method Providing a Computer User Interface Enabling Access to Distributed Workgroup Members)と題する本願の出願人に譲渡されている先の米国特許出願に関連している。この米国特許出願は、本願で援用される。

【0002】

【発明の属する技術分野】本発明は、一般に、コンピュータのユーザ・インターフェース設計に関係し、更に詳しくは、コンピュータに基づく作業環境においてユーザの協力を向上させるためのユーザ・インターフェース及び方法に関する。

【0003】

【従来の技術】多くの職場では、従業員(workers)の生産性の程度は、他の従業員と直接に交流(相互作用)して、共通の問題、課題、又は関心についての情報を交換できる可能性に、大きく依存する。共通のプロジェクトにおける種々の側面を共有するチーム又はワークグループの構成員にとっては、インフォーマルな(形式張らない)交流が、極度に重要である。最近の研究によれば、インフォーマルな交流は、組織における情報の流れの中の著しい量を左右するにもかかわらず、その有効性に関して利用があまり行われていないとされる。特に、組織内における情報の流れに関する最近の調査は、組織内の人間が同じ組織の中の他の人間と情報を交換したいと考える際には、そのような機構はあまり有効ではないと考えているにもかかわらず、文書やプレゼンテーション(発表)などのフォーマルな機構を用いて、階層的な管理の連鎖を通じてコミュニケーションを行おうとする傾向にあることを示している。他方で、従業員は、その組織の中の他の部分から情報を得たいと考えるときには、個人的に知っており尊敬している従業員に質問する

傾向があり、従って、インフォーマルな交流、特に、個人的な口頭でのコミュニケーションに依存している。この調査は、インフォーマルな交流が、多くの場合に、職場における共同体感覚を促進し、チームとしての一体感を高め、より効率的な問題解決に導き、従業員の間での知識や経験の共同の管理を向上させることを暗示している。知識や経験をこのように集積することにより、個々の従業員や全体としてのワークグループの成績が向上し、多くの場合に、モラル(morale)や仕事の満足度も向上する。

【0004】物理的な近接性(proximity)は、グループの構成員が、インフォーマルで、予定していない交流を開始することを可能にすることによって、グループとしての業務をサポートする。特に、グループの構成員が近く オフィスや業務空間を共有するような業務環境では、グループの他の構成員が働いていることを意識することが多い。これによって、グループのある構成員は、そこにいて働いているグループの他の構成員に容易に接触し、関心のある何らかの課題について会話を始めることが可能になる。他人を意識していることが、自発的で即興的な交流を実現させるのに重要であることは知られており、そのような交流によって、従業員たちは作業を調整し、共通の課題についての理解を共有することが容易になる。このように、インフォーマルに交流することの可能性は、業務に対して大きな効果を有し、従業員が他の従業員を意識していることによって、この交流が容易になり得る。

【0005】グループの構成員は、共通の問題の種々の側面に関して仕事をする際に、実行するタスクが重複していたり、用いる情報やデータが同一のソースに由来していることが多い。グループ構成員の間でのインフォーマルな交流の多くは、これらのタスクにおける共通の問題を解決することに向けられている。これらの活動の間に同僚に遭遇することは、しばしば、インフォーマルではあるが有効な個人間のコミュニケーションの機会を提供する。更に、他の従業員を意識していることにより、共通のタスクや機能に関する課題を共有することが容易になる。

【0006】しかし、いくつかの傾向が組み合わされて、ワークグループが密接であり続けることを困難にしている。組織のサイズが大きくなるにつれて、ワークグループの構成員は、多くの場合に、キャンパス内の異なった建物に分散されるし、更には、地球規模で、異なった地理的なサイトに分散されることになる。また、企業は、フレキシブルな業務スケジュールや、通信による、すなわち、自宅業務計画などを採用している。更に、企業の職場におけるコンピュータの使用が増大していることも、この傾向に影響している。

【0007】これらの傾向が組み合わされ、物理的な意味で相互に密接な位置に存在していることによってワー

クグループが伝統的に共有していた、物理的なアクセスが失われている。ワークグループの数は、ネットワークに接続されたコンピュータ・システム、ファクシミリ、テレビ会議 (video teleconferencing) などの電子的に仲介される機構によって、増加している。これらの電子的な設備は、ワークグループを分断しかねない物理的な距離を超えて生の情報が流通することを非常に効果的に助けるが、物理的に同じ場所で働く人間であれば共有している相互の意識感覚や交流の機会を、同じ豊かさにおいて与えることはできない。

【0008】従って、分散しているワークグループの構成員に対して、物理的に相互に近接した位置にいる従業員であれば共有する意識の感覚に類似の感覚を与えるコンピュータに基づく機構 (メカニズム) を提供することが望まれる。望ましい共同的なコンピュータ・システムにおいては、アプリケーションは、タスクが近接している (task proximate、以下では「タスク近接」と称する) 他の人間に関する意識を適切に提供しなければならない。従業員は、同じ又は関連するデータに関して、同じ又は関連するアプリケーションを用いて、ほぼ同じ時刻に業務を行っている場合に、「タスク近接」であるとする。所望の機構は、更に、タスク近接である他の者や交流したいと考える者が、会話を始める又は何らかの形で出会う方法を提供する。

【0009】多くの種類のコンピュータによって実現される通信装置が知られているが、これらの既知の装置では、任意の種類のタスクに関して類似のタスクを有する他の従業員についての意識を生じさせる一般化した機構を提供することはできていない。従来の製品の中にも、特定のタイプ of アプリケーションに向けた非常に限定された情報を与えるものは存在している。例えば、ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) にアクセスするためのウェブ・ブラウザは、2人又はそれより多くのユーザが同時に同じウェブ・ページ上にいるかどうかだけを判断できる。その際には、両方のユーザは同じウェブ・ブラウザ・アプリケーションを有していなければならない。そのウェブ・ページは、それらのウェブ・ブラウザと互換性のあるウェブ・サーバによって提供されなければならない。これによって、他人に関する意識は、ユーザと計算資源に関する非常に小さな特定のコミュニティに限定されてしまう。更に、この構成では同じウェブ・ページに複数のユーザがいるかどうかだけを判断するように設計されているので、そのような製品では、種々の異なるアプリケーションと共に用いて、複数の個人が種々の使用時期において関連するデータに関して関連するタスクを実行しているかどうかを判断することのできる一般化されたシステム・アーキテクチャを提供することはできない。更に、そのような製品では、異なる従業員が実行しているタスクの間の関係を示し彼らの間のコミュニケーションを容易にする一般化されたユーザ・インターフェ

ースを提供できない。

【0010】従来の製品には、これ以外にも、地理的なモデルに依拠して、ユーザのコミュニティが共有している環境をシミュレートするものもある。その例として、マルチ・ユーザ・ダンジョン (multi-user dungeon) すなわち、MUDや、オブジェクト指向 (object-oriented) のMUD、すなわち、MOOなどがある。これらの機構は、仮想的な空間を提供し、ユーザは、その仮想的空間を通して進み、その中で同じ部屋又は位置を共有する他のユーザと交流する。これらの機構は、仮想空間の、タスク指向 (task-oriented) のモデルではなく、位置指向 (location-oriented) のモデルに完全に基いている。更に、MOO及びMUDは、他のアプリケーションがそれと共に動作しタスク近接情報を提供するアーキテクチャではなく、それ自身の環境、ある意味では、それ自身のアプリケーションとしての使用のために設計されている。更に、ほとんどのMOO及びMUDは、エンターテインメントの目的、特に、他のユーザに会う目的で用いられる。

【0011】他にも、方向の決まった通信能力を有するだけの従来型のコンピュータ・ツールが存在する。例えば、電子メール又はテレビ会議用の製品によれば、ユーザは、特定のモードにおいて、他の従業員と直接に通信できる。しかし、これらの製品は、ユーザのタスク近接性については、何の情報も提供しない。むしろ、これらのツールは、他のユーザが1人又は複数の特定の人間と通信することを望んでいることを既に知っているユーザのためのものである。従って、これらの製品は、相互にタスク近接であるユーザを意識することによって可能になる自発的なタイプの交流を実現することはできない。

【0012】

【発明の概要】本発明の1つの実施例は、これによれば、自分のコンピュータを用いている従業員が、アクセスしているデータや、用いているアプリケーションや、そのような業務が実行された時刻などの、自分たちがしている仕事のタイプに関して、他のどの従業員が近くにいるかを知ることができる機構 (メカニズム) を提供する。ある実施例では、この関係は、「タスク近接性」として知られている。ある従業員が別の従業員と「タスク近接」であるとは、両者が、特定の時間周期の間に、類似するタイプのデータにアクセスしている、又は、類似するアプリケーション・ツールを用いている場合である。データ、ツール、及び時間周期の間の関係は、異なるタイプのデータ及びアプリケーションに対応するために、変動することがある。タスク近接性の関係は、従業員が共通のタスクに関する情報を共有している物理的な業務環境において生じるタイプの交流に対応する。本発明によれば、従業員は、タスク近接である他の従業員を知ることになり、物理的な業務環境において見られるタイプの自発的な交流を容易にする。その理由は、コンピ

ユータによって実現されるタスクを行っている従業員は、他の従業員が同様のタスクを行っているという意識（awareness）から利益を得るからである。ある従業員が他の従業員をこのような態様で意識するときには、彼らのタスク又は他の何らかの関連するタスクをサポートする交流が生じる可能性が増加する。

【0013】従業員は、典型的には、多数の異なるコンピュータ・アプリケーションを用いて、自らの機能や目的を果たす。異なる従業員が異なるアプリケーションを用いながらも、彼らは、同一の又は類似するタスクを行う場合がある。従って、本発明の別の側面によれば、異なるマシン上で、別の時刻に別のアプリケーションを用いて作業を行う異なるユーザの間でのタスク近接性を判断するシステム及びアプリケーション・アーキテクチャが、提供される。更に、最終的な目的はタスク近接であるユーザの間の交流を容易にすることであるから、本発明のアーキテクチャは、タスク近接なユーザの間でのコミュニケーションを効率的に単純に開始させる機構を提供する。最後に、本発明は、タスク近接な従業員を表すユーザ・インターフェースを与え、それぞれの従業員が、他の従業員と種々のタイプの交流を容易に開始できるようにする。

【0014】

【発明の実施の形態】

遭遇ウィンドウ及びタスク近接性

図1を参照すると、タスク近接である他のユーザの意識を可能にする機構のユーザ・インターフェースの1つの実施例が示されている。図1には、特定のユーザの、通常は「デスクトップ」と称されるスクリーン表示が図解されている。この特定のユーザは、ここでは、カレント・ワーカ（current worker）と称することにする。このデスクトップは、カレント・ワーカのコンピュータの表示画面上に生じる。デスクトップ10では、ブラウザ・アプリケーションのためのアプリケーション・ウィンドウ13と、遭遇メカニズム（機構）のユーザ・インターフェース部分であるエンカウンタ（encounter、遭遇）ウィンドウ20とがある。エンカウンタ・ウィンドウ20は、他のどの従業員がタスク近接であるかをカレント・ワーカに知らせる視覚的な機構を与える。この遭遇メカニズムは、更に、タスク近接である従業員に関する音

【0015】カレント・ワーカにタスク近接なそれぞれの従業員に対しては、エンカウンタ・ウィンドウ20は、その従業員の適切な表現を表示する。この好適実施例では、この表現は、アイコン22である。アイコン22は、従業員のビット・マップされたイメージである。別の実施例では、それぞれの従業員が利用可能なハードウェア・サポートのレベルや、利用可能なネットワーク

の帯域幅や、それぞれの従業員が望むプライバシーのレベルなどに応じて、種々のグラフィック・イメージ・フォーマットや、リアルタイムの映像や、単純なテキスト列や、それ以外の情報などの、他の形式の表現を用いることができる。ビデオ・カメラを備えているコンピュータを有する従業員の場合には、彼ら自身のビデオ・イメージをキャプチャすることによって、表現を作成してもよい。ビデオ・サポートのない従業員の場合には、アイコンをアイコンの組の中から選択したり、その従業員がアイコンを作成したり、又は、テキスト列を用いてもよい。

【0016】エンカウンタ・ウィンドウ20は、カレント・ワーカに対して新たな従業員がタスク近接になり別の従業員がタスク近接性を失うにつれて、周期的に更新される。カレント・ワーカ又は他の従業員の内容（コンテンツ）がアプリケーションの間で切り換わるので、エンカウンタ・ウィンドウ20は、更新されて、その時点でカレント・ワーカにタスク近接である従業員のアイコン22を表示する。遠隔のコンピュータで作業している従業員があるアプリケーションを用いてカレント・ワーカに対してタスク近接になるときは、エンカウンタ・ウィンドウ20は、同じ視覚的／音声的な合図（cue、キュー）を発して、エンカウンタ・ウィンドウ20内に、その従業員に対するアイコン22が現れる。その人間がもはやタスク近接ではなくなると、アイコン22は、除去される。エンカウンタ・ウィンドウ20は、こうして、他の従業員のタスク近接性に变化があったことを、カレント・ワーカに僅かに知らせる。

【0017】タスク近接性は、3つの判然としたファクタの中の任意のものに基づく。すなわち、1）その従業員が現に用いているアプリケーション、2）その従業員がアクセスしている又は操作しているデータ、及び3）そのような作用が生じた時刻、の3つである。これらのファクタは、様々に用いられて、「タスク空間」におけるユーザの位置を定義する。タスク近接性の最も厳密な定義は、2人の従業員が、同時に、同一のデータ・ファイルに関して、同一のアプリケーションの、同一の機能を用いている場合である。

【0018】位置及びタスク近接性の定義は、上に掲げたファクタのそれぞれに沿って、独立に緩和することができる。例えば、

*アプリケーションの制約を緩和して、異なるアプリケーション又はアプリケーションのタイプを用いて同じデータを見ている従業員は依然としてタスク近接である、とすることができる。例としては、異なるウェブ・ブラウザを用いて同じWWWページを見ている、又は、異なるデータベース・アプリケーションを用いて同じデータベース・テーブルにアクセスしている場合を含む。また、アプリケーションの制約を強化して、たとえ同じアプリケーションにおいても、2人の従業員は、ワード・

プロセッサにおいてスベル・チェック機能をもちいたり、コンパイラにおいてコードをコンパイルしたりなど、同じ機能を実行していなければならないようにもできる。この場合には、同じアプリケーションは用いているが別の機能を実行している従業員は、タスク近接ではないと考えられる。

【0019】*時間に関する制約を緩和して、相互に所定の時間周期の間に同じデータにアクセスしている従業員はタスク近接であるようにすることができる。例えば、15分の間に同じ株式相場にアクセスする従業員は、相互にタスク近接であり得る。同様に、1時間の間に同じウェブ・ページ又は電子メール・メッセージにアクセスする従業員や、1日の内に同じワード・プロセッシング文書にアクセスする従業員もまた、タスク近接とすることができる。

【0020】*データに関する制約を緩和して、同じアプリケーションを用いて別のデータにアクセスしている従業員をタスク近接であるとしてすることができる。例えば、あるファイル・ブラウザを用いて同じファイル・ディレクトリの中の別のファイルにアクセスしている従業員をタスク近接であるとしてすることができる。更に別の例として、特定の日付の特定の人間のカレンダーを見ている従業員を、同じ人間のカレンダーを別の日付に関して見ている別の従業員とタスク近接であるとしてすることができる。同様に、選択された日付に関してカレンダーを見て会議室などの施設を予約する従業員は、その日付に関してカレンダーを見て別の会議室を予約する別の従業員とタスク近接であるとし得る。

【0021】タスク近接性は、好ましくは、現にアクティブである、又は、直近の時点でアクティブであったアプリケーションに関して判断される。タスク近接性は、アプリケーションによって、又は、ユーザの位置に関する情報を有するそれ以外のソフトウェア・コンポーネントによって、判断できる。この情報は、好ましくは、アプリケーションによって、与えられる。この情報を与えることのできるアプリケーションは、「遭遇を意識している」(encounter-aware)。与えられたタイプのアプリケーションが、同じ又は類似する態様でタスク近接性を判断することが好ましい。アプリケーションのタイプは、一般には、例えば、データベース、ワード・プロセッサ、メール、コード・コンパイラなどの、使用の性質又は領域に基づく。複数のタイプを有すると考えられるアプリケーションも存在する。与えられた1つのタイプの2つのアプリケーションは、それぞれのユーザに対して、実質的に同じタスク近接性の判断がなされることが好ましい。

【0022】図2は、種々のタスク近接性の関係を図解している。図2は、上述した3つのファクタによって定義される軸を有するタスク空間を表している。このタスク空間においては、個々の従業員は、ラベルの付いた円

によって表されている。アプリケーション軸に沿っては、3つの遭遇意識アプリケーションL、M、Nが存在する。データ軸に沿っては、3つのデータ・ファイルX、Y、Zが存在する。時間は、連続的である。従業員A及びBは、共に、アプリケーションNを用いて、同時にデータ・ファイルZにアクセスしている。NとNのタイプの他のアプリケーションがタスク近接性に関するこの定義を強制する場合には、A及びBは、それぞれの表現を、自らのエンカウンタ・ウィンドウにおいて見ることになる。

【0023】従業員C及びHは、アプリケーションLの中におり、このLは、データ及びアプリケーションに関する制約を緩和する。アプリケーションLは、2人の従業員は、両者がアプリケーションLを用いているか、又は、同じアプリケーションを用いていない場合には同じデータにアクセスしている場合に、タスク近接であるという近接性の定義を適用する。アプリケーションLは、時間に関しては、厳密な要件を課す。従って、従業員C及びHはタスク近接であり、その理由は、彼らが、別のデータにアクセスしているが同じ時刻にアプリケーションLの中にいるからであり、彼らは、共に、互いのエンカウンタ・ウィンドウの現れる。更に、アプリケーションLは、従業員Hは従業員A及びBとタスク近接であると考え。その理由は、従業員A及びBは、異なるアプリケーションは用いているが、Hと同時に、Hと同じデータ・ファイルZにアクセスしているからである。この状況の例は、アプリケーションL及びNが別のWWWブラウザであり、データ・ファイルZがあるWWWページである場合である。別の例としては、従業員G及びFが、異なっているが関連するデータ・ファイルに関して、同時にアプリケーションMを用いている場合であり、互いのエンカウンタ・ウィンドウに現れることになる。

【0024】ある好適な実施例では、タスク近接性は、対称的であり、それによって、第1の従業員が第2の従業員のエンカウンタ・ウィンドウに現れる場合には、第2の従業員は、第1の従業員のエンカウンタ・ウィンドウに現れる。これは、ラーキング(lurking、潜行)を防止するためには、望ましい。

【0025】しかし、ある場合、例えば、時間に関する制約を緩和する際には、非対称が好ましい又は必要である。例えば、従業員D、F及びGが同一のアプリケーションを要求するタスク近接性の定義を用いるアプリケーションMを用いており、時間の制約を部分的に緩和し、データの制約を緩和するとする。この場合には、従業員D及びGは、共に、データ・ファイルにアクセスするが、異なる時間でのアクセスである(例えば、Dは、Gのアクセスから少し遅れてデータ・ファイルXにアクセスする)。すると、従業員Gは、従業員Dのエンカウンタ・ウィンドウには現れるが、Dは、Gのエンカウンタ

・ウィンドウには、現れない。

【0026】従業員Eは、アプリケーションMにおいて従業員G及びFが行うのと同時に、アプリケーションNを用いてデータ・ファイルYに作用する。しかし、彼らは、それぞれのエンカウンタ・ウィンドウには現れない。その理由は、アプリケーションM及びNは、共に、アプリケーションの一致を要求するからである。これらは、可能なタスク近接性の関係のタイプのいくつかの例に過ぎない。

*

アプリケーションのタイプ

テキスト・エディタ／

ワード・プロセッサ

ファイル・ブラウザ

電子メール・アプリケーション

コード開発環境

カレンダー・ブラウザ

ウェブ・ブラウザ

この例は、単に、異なるタイプのアプリケーションに対してタスク近接性を定義する種々の方法を図解しているに過ぎない。これらのクラスの中の任意のものに対して、時間の制約は適用されていないが、その理由は、インストールされたものに基づくサイズに応じて、従って、与えられたデータ・ファイルに対して与えられた時間周期においてタスク近接になり得る従業員の数又はそれ以外のファクタに応じて、程度を変動させることにより緩和することができるからである。

【0029】好適実施例においては、遭遇メカニズムは、他の従業員についての「意識」の種々のモードを提供する。これらのモードによれば、カレント・ワーカは、その遭遇メカニズムが彼又は彼女の経験に入り込む程度を制御することができる。意識の程度は、それぞれの従業員によって独立に特定され、遭遇メカニズムを両方の場合において、すなわち、この遭遇メカニズムがカレント・ワーカにどのように現れるか、また、カレント・ワーカが、他の従業員のエンカウンタ・ウィンドウ20においてどのように現れるかを、制御する。意識のモードは、デスクトップ上のすべてのアプリケーションに適用されるものとして特定される、又は、それぞれのアプリケーションにおいて個別に特定される。遭遇メカニズムの好適実施例においては、遭遇メカニズムに対して、3つのモードの意識がある。すなわち、開いたモード、極小 (minimal) のモード、及び閉じたモードである。意識のモードは、メニューから、又は、モード・アイコン18をクリックすることによって選択される。

【0030】意識の開いたモードは、タスク近接な他の従業員との交流を受ける従業員によって用いられる。遭遇メカニズムが「開いている」として特定される際に

*【0027】以上で述べた例は、個々のアプリケーションに言及しているが、タスク近接性の定義は、好ましくは、そのアプリケーションのそれぞれの場合の特定の実現とは無関係に、与えられたタイプのアプリケーションの内部で一貫している。アプリケーションのクラスに関するタスク近接性の定義の例には、次のようなものを含む (しかし、これらに限定はされない)。

【0028】

タスク近接性の定義

同じデータ・ファイル

同じディレクトリ・ツリー、又は、
1つのディレクトリ・レベルの内部

同じメッセージ

同じレベルのコード・ツリーでの
コード・ファイル

同じカレンダー・ファイル、又は、
同じ日付

同じウェブ・ページ

は、従業員は、タスク近接である従業員の表現を見るし、更に、これらの表現は、従業員のタスク近接性が変化するにつれて更新される。ある従業員が遭遇メカニズムを開いたモードに設定すると、その従業員の視覚的な表現が他の従業員のエンカウンタ・ウィンドウに現れる。更に、開いたモードでは、電子メールのアドレス、電話番号、ファックス番号、住所などの、そのユーザに関する追加的な情報を得て、テレビ会議、電子メールによるメッセージなどの手段により、これらの従業員の中の任意の者との交流を開始する。

【0031】エンカウンタ・ウィンドウにおける従業員の視覚的な表現に加えて、ある従業員がタスク近接になったり又はタスク近接性を失う度に、音声による指示を用いることもできる。これらの事象のそれぞれに対して、異なる音声的な指示を用いることができる。例えば、ある従業員がタスク近接になる際には長いビーブ・トーン (beep tone) を用い、タスク近接でなくなる際には、短いビーブ・トーンを用いるなどである。他の音声効果を用いてもかまわない。

【0032】好適実施例においては、エンカウンタ・ウィンドウ20へのアイコン22の追加やエンカウンタ・ウィンドウ20からのアイコン22の除去は、従業員がタスク近接になったりタスク近接でなくなったりする際に、アイコン22の視覚的な変換によってなされる。この視覚的な変換は、フェード (消える)、ワイプ (取り去る)、ディゾルブ (解消する)、プル (引く)、又は、アイコン22を目立たないように配置及び除去する他の徐々に生じる視覚的な効果を含む。このような視覚的な変換は、従業員が物理的な職場で典型的に有する従業員の出入りに関する意識が、漸次に取得されること

を、より自然に反映している。

【0033】いつの時点でも、カレント・ワークに対してタスク近接である従業員の数、1日の時間の結果として、アプリケーションに基づいて、ネットワークのサイズによって、あるいはそれ以外のファクタによって、大きく変動する。また、アプリケーションによっては、映像放送によるプレゼンテーション・ソフトウェアのように、多数の異なるユーザを同時に含むことを意図するものもある。これらの変動に対応するために、ユーザは、エンカウンタ・ウィンドウの外見（appearance）を制御することができる。好ましくは、遭遇メカニズムが開いているときには、エンカウンタ・ウィンドウ20が現れる方法は、少なくとも2つ存在する。比較的少数のタスク近接である従業員が存在することが予測される、又は、実際にそうであるようなアプリケーションでは、エンカウンタ・ウィンドウ20は、これらのユーザの表現を、コンパクトなウィンドウ・フォーマットで表示する。図1に図解されているエンカウンタ・ウィンドウ20は、コンパクトなフォーマットを有する意識の開いたモードを用いて示されている。

【0034】コンパクトなフォーマットでは、エンカウンタ・ウィンドウ20は、スクロール可能なウィンドウ枠（pane）24の中に、タスク近接な従業員の表現を含む。スクロール可能なテキスト領域26は、どの従業員がタスク近接になり、どの従業員が「去った」のかに関する情報を与える。更に、共有されているテキスト領域26によって、従業員が、相互にテキストによる対話によって、相互に通信することが可能になる。

【0035】コンパクトなフォーマットは、更に、タスク近接な従業員に関する情報を取得する手段と、1人又は複数の従業員とコンタクトをとる手段とを提供する。図1では、情報ボタン28は、タスク近接である従業員の中の1人の選択された表現に対する、ビジネス・カード（名刺）30と称される別のウィンドウをもたらす。ビジネス・カードは、その従業員とコンタクトをとるのに有用な情報、例えば、その従業員の内線番号、メール・ストップ、ファクシミリ番号、電子メール・アドレスなどを含む。好適実施例では、ビジネス・カード30は、地球規模でアクセス可能なデータベースに記憶された、従業員に関する情報の特定の部分を示している。

【0036】頻繁に、従業員は複数のアプリケーションを走らせることはあるが、ある理由で、コンピュータを用いていないこともある。遭遇メカニズムの目的の1つはカレント・ワークがタスク近接である従業員と成功裏に通信できる可能性を増加させることであるから、遭遇メカニズムは、他の従業員が現にコンピュータを用いているかどうかについての情報を提供する。この情報を提示する1つの方法は、ビジネス・カード30においてであり、ビジネス・カードには、図1に示されているように、その従業員のキーボードなどの入力装置が現在アク

ティブであるかどうかを示すテキスト・データが含まれる。その従業員の入力装置がアクティブでない場合には、遭遇メカニズムは、最後にアクティブであったときからの時間の長さか、又は、最後にアクティブであった時刻を提供する。

【0037】ビジネス・カード30は、更に、その従業員に関する他の情報、例えば、その従業員のカレンダー32などへのアクセスを提供する。カレント・ワークは、その従業員の暇な時間や、タスク近接になってからの時間などの情報にもアクセスする。ビジネス・カード30は、更に、カレント・ワークに、特定の従業員が交流している他の従業員のアイデンティティを知らせるのに有用であり、それによって、カレント・ワークが、その従業員との通信を試みる際の、礼儀と成功の可能性とを評価することが可能になる。

【0038】更に、カレント・ワークは、任意の他の従業員との通信（コミュニケーション）を開始することができる。この交流には、スティック・アップ・ボタン34を介してそのビジネス・カードを所有する従業員にテキスト・メッセージを送ることや、電子メール・ボタン36を介してその従業員に電子メールを送ることや、テレビ会議ボタン38を介してその従業員とテレビ会議を始めることなどが含まれる。これらの交流フォーマットは、それぞれが、オペレーティング・システム又はアプリケーション・フレームワークにおける適切なサービス・インターフェースによって提供される。ある実施例では、これらの種々のサービスは、オブジェクト・リクエスト・ブローカと交流してあるユーザのコンピュータ上の通信アプリケーションを第2のユーザのコンピュータに結合する通信サーバ（テレビ会議サーバなど）によって管理される。

【0039】更に詳しくは、コンタクト・ボタン40によって、カレント・ワークが、1又は複数の選択された従業員との交流を開始することが可能になる。ある実施例では、カレント・ワークは、エンカウンタ・ウィンドウの中の表現から1又は複数を選択して、コンタクト・ボタン40を押す。次に、遭遇メカニズムが、通信サーバと連携して、テレビ会議、電子メール、テキスト・チャット、音声などの通信メカニズムを、それぞれの従業員が利用可能なハードウェア/ソフトウェア・サポートに応じて、選択する。ただ1人の従業員しかテレビ会議の設備を有しておらず、他方は音声サポートだけの場合には、音声だけの会話が開始される。

【0040】カレント・ワークに対して多数の従業員がタスク近接であるアプリケーション又はコンテキストに対しては、エンカウンタ・ウィンドウ20は、拡張されたフォーマットで動作される。図3には、拡張されたフォーマットの1つの例が図解されている。拡張されたフォーマットは、ウェブ・ブラウザ、データベース、又はネットワーク放送アプリケーションなどの多くの従業員

が同時に用いることがあるアプリケーションに対して有用である。

【0041】拡張されたフォーマットでは、追加的な機能が与えられて、カレント・ワーカがタスク近接な従業員を見つけてその表現を組織化する能力を強化する。図3では、エンカウンタ・ウィンドウ20は、多数のアイコン22を表示するように構成され、カレント・ワーカは、無線ボタン29を用いて、名前の表示に切り換えることができる。これにより、図4の表示が生じる。次に、カレント・ワーカは、従業員の組を、従業員の名前、従業員がタスク近接になった時刻（最も最近か、又は、その逆か）、従業員の暇な時間、又は交流活動などを含む任意の数のキー27によって、ウィンドウ枠のトップに現れている従業員と相互に交流している従業員と、ソートする。この最後のソートのキーによって、遭遇メカニズムの協同的な性質が強化され、それぞれの従業員が、タスク近接である他の従業員と、交流している従業員との両方を見ることが可能になる。従業員は、また、名前、位置、所属などの情報を含む個人的な情報、又は、活動レベルなどのそれ以外の情報の種々のサーチ・キーを用いて、再び、特定の従業員をサーチする。

【0042】エンカウンタ・ウィンドウのフォーマットは、特定の機能に関連している。どのアプリケーションでもユーザの数は変動するので、カレント・ワーカは、エンカウンタ・ウィンドウ20のフォーマットを切り換えて、機能を制御する。これは、追加的な従業員がカレント・ワーカの個人的なタスク空間に「入り」（タスク近接になり）、又は、その空間から「出る」（タスク近接でなくなる）からである。フォーマットの間での切り換えは、適切なユーザ・インターフェース又はキーストロークを用いてエンカウンタ・ウィンドウ20のサイズを決め直すことを含む多数の方法で、実行できる。

【0043】開いたモードの間にエンカウンタ・ウィンドウ20のフォーマットを制御することに加えて、ある実施例では、その従業員は、タスク近接性のディスプレイの感度を制御して、それにより、与えられた従業員が同時に同じデータにアクセスしているのか、異なる時刻に同じデータにアクセスしているのか、同時に異なっているが関連するデータにアクセスしているのかなどを、ユーザが区別できるようになる。これにより、ユーザは、それぞれの従業員のタスク近接性の意義を評価できる。タスク近接性の程度は、アイコン22上の異なる色の境界、異なる境界のパターン、アイコン22の位置、又は、それ以外の視覚的な属性によって、示すことができる。例えば、タスク近接性の程度の指示として位置を用いると、「より近い」（よりタスク近接な）従業員は、エンカウンタ・ウィンドウのトップに配置され、「より遠い」（よりタスク近接でない）従業員は、ボトムに配置される。

【0044】ある場合には、従業員は、特定のタスクに

集中するために、又は、それ以外の理由のために、タスク空間において、他人に関して単に周縁的にだけ意識したいことがあり得る。カレント・ワーカは、その場合には、遭遇メカニズムを、その極小モードに設定する。極小モードでは、遭遇メカニズムは、少なくとも1人の従業員がタスク近接であるかどうかだけを示し、タスク近接である従業員が誰であるかどうかは示さない。この指示は、単純な比較的小型のアイコンによって与えられる。図5a及び図5bは、極小モードの例を図解しており、極小モードのアイコン18が、ウェブ・ブラウザ・アプリケーションのウィンドウ13のトップに表示されている。図5aは、人のアイコンが空になっていることで、タスク近接である従業員は他に誰もいないことを示す極小モードのアイコン18を図解している。カレント・ワーカが別の従業員に対して最初にタスク近接になると、極小モード・アイコン18は更新され、図5bに示されるように、人が存在することを暗示するようになる。他の従業員がカレント・ワーカのタスク空間に入るとは、アイコン更新の原因にならない。最後の従業員がカレント・ワーカに対するタスク近接性を失うと、アイコン18は、図5aに示されるように、そのブランクの状態に戻る。更に、極小モードは、オプションで、視覚的な指示に釣り合う音声的な指示を含み、従業員がタスク空間に入るときと、出るときとに対して、区別できるトーンを対応させる。

【0045】最後に、カレント・ワーカが、他のどの従業員を意識するに全く興味をもたないこともある。従って、閉じたモードが提供され、この場合には、エンカウンタ・ウィンドウ20は、全く用いられず、カレント・ワーカは、他の従業員のタスク近接性に関する情報を全く受け取らない。

【0046】好適実施例では、従業員がエンカウンタ・ウィンドウにおいて何を見るかを制御することに加えて、このモードは、他の従業員が、この特定の従業員に関して何を見るかを制御する。開いたモードでは、従業員の表現が、イメージ、映像、又はそれ以外であるかによらず、タスク近接である他の従業員のエンカウンタ・ウィンドウ20に提供される。表現は、図1に示されているようになり、種々の従業員のイメージが示される。

【0047】極小モードでは、従業員は、他の従業員について、単に極小的に意識することを望み、この望みが、タスク近接である他の従業員に伝えられる。従って、極小モードの従業員は、図1に示されているように、シルエット42のように、極小モードを表すアイコン又は他のイメージによって、他の従業員のエンカウンタ・ウィンドウ20において、見られる。

【0048】最後に、従業員が極小モードにあると、タスク近接である他の従業員には何の表現も与えられず、これは、第1の従業員の、この状態の情報を受け取らず又は送らないという意図に沿うことになる。従って、遭

遇メカニズムのモードは、好ましくは、他の従業員に与えられる、及び、他の従業員から受け取られる情報に関して、対称的である。または、従業員は、それぞれのモードに関して、他の従業員に与えられる情報のタイプ又は程度を特定することができる。

【0049】すべてのモードは、従業員が用いているすべてのアプリケーションに対して、又は、それぞれに対して個別的に、特定することができる。例えば、従業員は、ウェブ・ブラウザに対して開いたモードであることを希望し、そのウェブ・ページにどの他の従業員がタスク近接であるのかを知ることが望むことがあり得る。理由は、これによって、その従業員が関係している活動又はタスクについての更に有用な情報が得られるからである。しかし、スプレッドシートやデータベースなどのツールでは、この従業員は、極小モードであることを望み、誰かが類似のタスクに関して作業しているかどうかだけをを知りたいと考えることがある。最後に、例えば、ワード・プロセッサのような別のアプリケーションに関しては、この従業員は、関わりられることを一切望まないこともある。

【0050】本発明の別の実施例では、タスク近接である従業員の利用可能性に関する更なる情報が、アイコン22の変化によって、エンカウンタ・ウィンドウ20において、表示される。利用可能性は、少なくとも5つのレベルに分割され、すなわち、アクティブ、暇、関係している、邪魔するな、不在である。利用可能性のこれらのレベルのそれぞれに関しては、デフォルトのアイコン又はユーザの定義によるアイコンが割り当てられ、それぞれが、利用可能性の関連するレベルを、視覚的に判然と、暗示又は指示する。利用可能性の判然としたレベルに対応する例示的なアイコン22aからeが、図9に示されている。利用可能性のレベルは、ある実施例では、例えば、キーボードの活動をモニタして、単位時間当たりのキーボード入力を利用可能性の現在のレベルを判断する計量として用いることによって、従業員のコンピュータ使用の間数として、決定される。更に、従業員のコンピュータとコンピュータ・ネットワークの通信アーキテクチャとの相互接続とを用いて、従業員が別の従業員との交流（例えば、電話、テレビ会議など）に関係しているかどうか判断される。手続的には、ある従業員がタスク近接であると判断された後で、その従業員のアイコン22は、利用可能性の現在のレベルを反映するように、更新される。従業員がタスク近接であり続ける限りは、そのアイコン22は、周期的に更新されて、利用可能性の現在のレベルを反映する。

【0051】例えば、典型的な場合には、第2の従業員が、利用可能性のアクティブなレベルにありながら、第1の従業員とタスク近接になる。従って、第2のユーザのアイコン22は、図9にあるように、第1の従業員のエンカウンタ・ウィンドウ20の中にアイコン22aと

して、図解される。第2のユーザが依然として第1のユーザにタスク近接であるある時間周期の後で、第2の従業員が暇になる場合には、アイコン22aは、利用可能性の現在のレベルを反映するように更新されて、アイコン22bのようになる。後に、第2の従業員が別の従業員との交流を開始すると（その別の従業員が第1又は第2のユーザとタスク近接であるかどうかには関係なく）、第2の従業員のアイコンは、再び更新され、例えばアイコン22cになる。

10 【0052】好ましくは、利用可能性アイコン22のレベルの変化は、フェード、ワイプ、ディゾルブなどの、漸次的な視覚的な変換を用いて生じ、変化が目立たないようにしている。利用可能性情報のレベルの使用及び実現は、上述した関連出願に、更に記載されている。

【0053】遭遇メカニズムのアーキテクチャ

次に、図6を参照すると、遭遇メカニズムを与えるシステムのブロック図が示されている。このシステムは、ネットワーク123上で接続された多数のコンピュータを含む。それぞれのコンピュータ101は、プロセッサ103と、アドレス指定可能なメモリ105と、ディスプレイ107と、ローカルなハードディスク109と、入力/出力ポート111と、ネットワーク・インターフェース113と、を含む。それぞれのコンピュータ101は、更に、好ましくは、その入力/出力ポートに結合された、従来型のマウス119などのポインティング・デバイスを含む。更に、コンピュータ101は、マイクロフォン117及びスピーカ118を介しての音声機能と、ビデオ・カメラ121を介してのビデオ機能とを有する。ユーザは、ネットワーク・インターフェース113を介して、LANやWANなどのネットワークに接続して、ネーミング・サービス(naming service)、プリンタ127、記憶装置125、他のコンピュータ101、又は遠隔のホスト131などの、遠隔サーバ129にアクセスする。適切なコンピュータには、米国カリフォルニア州マウンテン・ビューのサン・マイクロシステムズ社の製造によるSPARCstation（登録商標）コンピュータが含まれる。Sun及びSolarisは、米国及び他の諸国において、サン・マイクロシステムズ社の登録商標である。すべてのSPARC商標は、米国及び他の諸国において、ライセンスの下に用いられ、スパーク・インターナショナル社の商標及び登録商標である。SPARCの商標を有する製品は、サン・マイクロシステムズ社によって開発されたアーキテクチャに基づく。他の任意の汎用コンピュータは、本発明と共に用いられるように構成できる。それぞれのコンピュータ101は、サン・マイクロシステムズ社のSolaris（登録商標）などの汎用オペレーティング・システムを、ネクスト・コンピュータ社からのOpenStep（登録商標）ウィンドウイング環境と共に実行する。典型的には、それぞれのコンピュータ101は、単一の従業員の専用であるが、コンピュータ101

は、それぞれ自身のコンピュータ101に対して、クライアントに対するサーバとして機能する、種々の異なるアプリケーションにアクセスする複数の従業員をサポートすることもできる。

【0054】それぞれのコンピュータ101のアドレス指定可能なメモリ105は、更に、本発明の実施例のための遭遇メカニズムを実現するのに有用なソフトウェア・コンポーネントを含む。図7は、遭遇メカニズムのアーキテクチャのオブジェクト・モデルを図解している。

【0055】遭遇メカニズムでは、それぞれの従業員又はユーザは、パーソン・オブジェクト(person object) 137を有する。パーソン・オブジェクト137の参照は、通常はユーザ・ハンドルを作成するのに用いられている、ユーザ・ネームやアカウントIDなどのユーザに特有の情報を、記憶する。パーソン・オブジェクト137は、更に、ビットマップされたイメージ、ポストスクリプト・データ、ドロー・オブジェクト(draw object)、又はテキスト・ストリング(列)などのエンカウンタ・ウィンドウに表示されるユーザの所望の表現を記憶する。これらの表現は、自動的に又はマニュアルに作成され、ユーザによって修正される。多くの異なるコンピュータ101に亘って分散する多数のユーザを有する好適実施例では、それぞれの従業員のエンカウンタ・ウィンドウ143を周期的に更新することの専用の大量のネットワーク通信が存在する。従って、パーソン・オブジェクト137は、好ましくは、コンパクトなデータ構造を有し、遭遇メカニズムの種々のコンポーネントの間を移動する情報の量を減少させる。パーソン・オブジェクト137の参照は、好ましくは、ユーザの名前を与えるキューに応答して、与えられたパーソン・オブジェクト137にハンドルを提供するネーミング・サービスなどの、中央化されたデータベース129に記憶される。

【0056】更に、パーソン・オブジェクト137の選択されたデータは、ビジネス・カード・オブジェクト139を介して見ることができる。好適実施例では、ビジネス・カード139は、エンカウンタ・ウィンドウ143又はパーソン・オブジェクト137からの他のクライアント・アプリケーションによって生成されるパーソン・オブジェクト137上のビュー(view)である。ビジネス・カード139は、それぞれのユーザに対して、ユーザのフルネーム、住所、電子メール・アドレス、電話番号、ファクシミリ番号などの、ユーザにコンタクトするために有用な情報を表示する。好適実施例では、ビジネス・カード139は、拡張可能であり、それぞれのユーザが、ローカルにキャッシュされたビジネス・カード139のコンポーネントに、他の従業員に関する追加的な情報を記憶するための1又は複数の新たなフィールドを定義することを可能にする。このような情報は、個人に関する静的なデータ(例えば、ページの数など)

か、又は、交流を容易にする機能的な情報(例えば、ページをダイアルするサービスの参照)かのどちらかである。

【0057】ビジネス・カード・オブジェクト139は、更に、表された従業員との通信(コミュニケーション)を開始する方法を含む。ビジネス・カード・オブジェクト139は、電子メール・サービスやテレビ会議などの既存のデスクトップ通信機能を統合している。一般に、分散コンピューティング環境では、ユーザのローカルな通信クライアントは、別の従業員の通信サーバのオブジェクト参照を、オブジェクト・リクエスト・ブローカに送り、次に、これが、通信サーバのハンドルをクライアントに戻す。次に、ローカルなクライアントが、通信サーバとの通信を直接に開始する。他のメカニズムも可能である。例えば、電子メール通信のためには、カレント・ワーカは、別の従業員の電子メール・アドレスを、その従業員のパーソン・オブジェクト137から要求し、それを、メール・ツールに送り、メール・ツールが、受け手への電子メール・メッセージを作成する。

【0058】やはり好適実施例において、それぞれのパーソン・オブジェクト137又はビジネス・カード139は、これらのオブジェクトがアプリケーションの間でカットされベストされることを可能にするベストボード・タイプであり、それによって、ユーザは、従業員に関する情報を、通信サービスを介して、それぞれの間で送ることができる。

【0059】更に、それぞれのコンピュータ101においては、単一のエンカウンタ・ウィンドウ143が提供される。それぞれのエンカウンタ・ウィンドウ143は、種々のパーソン・オブジェクト137に関連するアイコン22などの表現を表示する。複数のコンピュータ101に亘って、複数のエンカウンタ・ウィンドウ143が存在し、従って、単一のパーソン・オブジェクト137の表現が、任意の数のこれらのウィンドウ143に現れる。エンカウンタ・ウィンドウ143は、意識のモード、通信機能、その中の従業員の表現などの、上述した機能を提供する。

【0060】他の従業員の意識と通信とが望ましいが、従業員は、プライバシーの感覚を維持し強化するために誰がその従業員にアクセスを有するのかを制御できなければならない。この実施例では、本発明は、従業員の利用可能性の顕著な合図のための十分なメカニズムを提供し、それによって、他の従業員は、個人のプライバシーを保護する社会的なメカニズムに依拠することができる。更に、特定のメカニズムがエンカウンタ・ウィンドウにおいて与えられ、他のどの従業員がカレント・ワーカへのアクセスを有するのかを制御する。この従業員は、テレビ会議などの通信サービスの中の種々のものをイネーブル又はディセーブルして、他の従業員によってコンタクトされる程度を制御できる。更に、ユーザは、意識の

レベルを、開いた、極小の、又は閉じたモードのどれかを、好ましくは、モード・アイコン18を用いて選択することにより、制御することができる。

【0061】それぞれのパーソン・オブジェクト137は、1又は複数の遭遇を意識しているアプリケーション131に間接的に知られている。一般に、それぞれの遭遇を意識しているアプリケーション131は、一度にひとりの従業員によって用いられる。しかし、別の実施例では、遭遇を意識しているアプリケーション131は、他のコンピュータ101からの複数のユーザによってア

10 クセスされ、アプリケーション131が遠隔のクライアントに対するサーバになり得る。

【0062】任意の時点で、アプリケーション131のユーザは、特定の機能と特定のデータとにアクセスしている。この情報は、ファイル・ネーム、オブジェクト・ネーム、ポインタ、又はその他の手段によって表される。ユーザが用いられている機能又はデータを変更する度に、遭遇を意識しているアプリケーション131は、状態メッセージを、その遭遇プロキシ・オブジェクト

(proxy object) 135に送る。状態メッセージは、その従業員が現に用いているデータ又は機能、あるいは、これらの組合せを特定する。状態メッセージは、データ・ファイルのネームと機能の言及とを含むストリングであり、それぞれのユーザの位置を決定するのに有用な追加的な情報を含みことができる。

【0063】それぞれの遭遇を意識しているアプリケーション131には、遭遇プロキシ・オブジェクト135が関連している。遭遇プロキシ・オブジェクト135は、遭遇を意識しているアプリケーション131に、遭遇サーバ141への通信メカニズムを提供する。遭遇プロキシ・オブジェクト135は、アプリケーション131から、アプリケーション131におけるユーザの現在の位置を記述する状態メッセージを受け取る。遭遇プロキシ・オブジェクト135は、従業員のパーソン・オブジェクト137へのハンドルを取得することができる。遭遇プロキシ・オブジェクト135は、また、それ自身が関連しているアプリケーション131のアイデンティティ(ID)を知っている。遭遇プロキシ・オブジェクト135は、状態メッセージを用いて、従業員のハンドルとアプリケーションのアイデンティティとを拘束(バインド)し、それを、遭遇サーバ141に送る。このようにして、アプリケーション131は、遭遇サーバ141と直接にインターフェースする必要がない。

【0064】遭遇プロキシ・オブジェクト135は、更に、遭遇サーバ141に、遭遇を意識しているアプリケーション131に含まれる一致オブジェクト133へのハンドルを提供する。これによって、サーバ141は、一致オブジェクト133と直接に通信して、それに、2人のユーザのタスク近接性の判断のためにユーザの位置データを送ることが可能になる。一致オブジェクト13

3へのハンドルは、好ましくは、アプリケーション131が新たなプロセスとして実行されるときに、遭遇サーバ141に提供される。

【0065】それぞれのコンピュータ101上のそれぞれのユーザに対して、遭遇サーバ141が提供される。遭遇サーバ141は、エンカウンタ・ウィンドウ143に、パーソン・オブジェクト137の表現が更新されなければならないときに、与えられたユーザを知らせる。エンカウンタ・ウィンドウ143は、これを、同じコンピュータ101上の遭遇プロキシ・オブジェクト135と他のコンピュータ101上の遭遇プロキシ・オブジェクト135とから受け取った状態メッセージに従って行う。ユーザが2つのコンピュータ101にログオンしている場合には、そのユーザには、2つの遭遇サーバ141が存在する。同様に、複数のユーザに対する単一のコンピュータには、複数のサーバ141が存在する。

【0066】遭遇サーバ141は、コンピュータ101上の遭遇を意識しているアプリケーション131のリストを維持して、それぞれのアプリケーション131に関する情報を、その遭遇プロキシ・オブジェクト135から受け取る。サーバ141は、更に、そのユーザに対してどのアプリケーション131が現にアクティブであるか(他のアプリケーション131が、背後で動作していることもあり得る)を識別する情報を保持する。この情報は、ウィンドウ環境によって提供され、アクティブなアプリケーション131が変更する際に、時々、更新される。

【0067】遭遇サーバ141は、そのコンピュータ101上の遭遇プロキシ・オブジェクト135から、及び、他の遭遇サーバ141から、状態メッセージを受け取り、これらの状態メッセージ147を記憶する。遭遇プロキシ・オブジェクト135からの状態メッセージは、アプリケーション131と、アプリケーション131におけるユーザの位置と、ユーザのハンドル及び位置と、もし存在すれば、アプリケーション131に含まれる一致オブジェクト133へのハンドルと、を識別する。好適実施例においては、遭遇サーバ141は、遭遇プロキシ・オブジェクト135からの状態メッセージを受け取るときに、それへのタイムスタンプを加える。タイムスタンプは、エンカウンタ・ウィンドウ143に現れるアイコン22の順序を決め、タスク近接性を判断するのに有用である。遭遇サーバ141は、次に、状態メッセージをネットワーク123上のすべての他のサーバ141に送る。

【0068】遭遇サーバ141は、状態メッセージを受け取ると、受け取ったメッセージを、記憶されていた状態メッセージ147と比較して、同じアプリケーション・タイプ又はアプリケーション・ネームを含む状態メッセージ、又は、一致基準を識別して、そのような状態メ

ッセージに含まれる位置データを一致オブジェクト133に送り、状態メッセージにおいて特定されるユーザがその位置に従ってタスク近接であるかどうかを判断する。遭遇サーバ141は、好ましくは、現にアクティブであるアプリケーション131の一致オブジェクト133を生じさせる。

【0069】好適実施例では、タスク近接性の判断は、一致オブジェクト133によって行われる。それぞれのアプリケーション131は、アプリケーションのタイプに特定のタスク近接性規則を適用する一致オブジェクト

133を有する。更に、遭遇サーバ141は、また、一致オブジェクト133のそれ自身のライブラリを有し、それぞれが、異なるタイプのアプリケーション131に対してタスク近接性を判断するように構成されている。【0070】アプリケーション131は、一致オブジェクト133を有しない場合には、遭遇サーバ141に対して、ファイル・ネームの比較や、ファイル・ネーム及びアプリケーション・タイプや、ファイル・ネーム及びタイム・スタンプや、更には、データの他の任意の組合せなどの、ライブラリから用いるための一致オブジェクト

133のタイプを示す。アプリケーション131が用いるべき一致オブジェクト133のタイプを示さない場合には、遭遇サーバ141は、好ましくは、単純なストリングの比較を行う一致オブジェクト133を用いる。【0071】アプリケーション131が一致オブジェクト133を有する場合には、アプリケーション131は、好ましくは、遭遇プロキシ・オブジェクト135を介して、遭遇サーバ141を用いて、一致オブジェクトを登録する。遭遇サーバ141は、ハンドルを受け取り、一致オブジェクト133に記憶する。遭遇サーバ141は、タスク近接性の判断を望むときには、ハンドルを用いて、現にアクティブなアプリケーション131の一致オブジェクト133を生じさせる。

【0072】別の実施例では、遭遇を意識しているアプリケーション131が開始する際には、その一致オブジェクト133は、遭遇サーバ141にコピーされ、それによって、一致オブジェクト133を遭遇サーバ141に移動させる。この実施例は、比較的高速の実現をサポートする。

【0073】一致オブジェクト133は、サーバから、2つの状態メッセージを受け取るが、一方は、ユーザの現在の位置を記述し、もう一方は、典型的には第2のコンピュータ101上で作業している別のユーザの位置を記述する。一致オブジェクト133は、所定のタスク近接性関数を用いて、ユーザが相互にタスク近接であるかどうかを判断する。タスク近接性関数は、それぞれのユーザに対する位置データの間のストリングの比較か、あるいは、タイムスタンプ、データ・ファイルなどの算術的すなわちブール代数的な比較を含む、より複雑な関数である。

【0074】一致オブジェクト133は、2人のユーザがタスク近接であるかどうかを示す、あるいは、既に述べたタスク近接性の複数の可能なレベルの中の1つを示す適切な状態値を戻す。一致オブジェクト133からの結果により、遭遇サーバ141が、そのエンカウンタ・ウィンドウ143に知らせる。次に、エンカウンタ・ウィンドウ143がそのディスプレイを更新し、タスク近接な従業員に対して新たな表現を追加するか、既存の1つを除去するか、又は、全く何の変更もしないか、のいずれかである。

【0075】それぞれのコンピュータ101上には、活動モニタ145が提供されている。活動モニタ145は、キーボード、マウス、及び他の入力装置をモニタして、従業員が現にコンピュータ101を用いているかどうかを判断する。所定の長さの時間の間に活動が存在しない場合には、活動モニタ145は、遭遇サーバ141に、そのユーザは暇（アイドル状態）であるとのメッセージを送る。この状態メッセージは、ユーザのパーソン・オブジェクトへのハンドルと、ユーザのマシン識別番号と、アクティブ/アイドル・フラグとを含む。遭遇サーバ141は、次に、状態メッセージを、ネットワーク123上のすべての他の遭遇サーバ141に送り、ユーザがアクティブではないことを示す。残りの遭遇サーバ141は、それに従って、エンカウンタ・ウィンドウ143を更新する。別の従業員が、アイドル状態にある従業員のビジネス・カード139を持ち出す際には、それは、従業員がアクティブではないことを示す。ユーザが再びアクティブになるときは、活動モニタ145は、アクティブ・フラグを有する状態メッセージを、その遭遇サーバ141に送り、これが再び、状態メッセージをネットワーク123に放送する。

【0076】遭遇メカニズムの動作の例が、図8に図解されている。別個の遠隔コンピュータ上で作業している又は同じコンピュータ上で作業している2人の従業員A及びBを、考える。それぞれの従業員は、遭遇を意識しているアプリケーションを有するものとし、この場合には、エディタ131a及び131bとし、それぞれが、遭遇プロキシ・オブジェクト135と一致オブジェクト133とを含む。それぞれのアプリケーション131は、好ましくは、アプリケーション131がアクティブになるときに通知を提供するアプリケーション・フレームワークを用いて作られている。それぞれの従業員は、自分自身の遭遇サーバ141a及び141bと、エンカウンタ・ウィンドウ143a及び143bとを有する。それぞれの遭遇サーバ141は、サーバ141に関連するユーザによって用いられているアプリケーション131の一致オブジェクト133へのハンドルを有する。複数のコンピュータ101の間のすべての通信は、遭遇サーバ141を介してのものである。それぞれの従業員は、自分自身のエンカウンタ・ウィンドウ143a

及び143bを開いたモードにしていると想定される。この例では、一致オブジェクト133は、遭遇を意識しているアプリケーション131に関連しており、上述したことであるが、遭遇サーバ141に関連している。また、活動モニタ145は、説明を簡単にするために、示されていない。

【0077】従業員Bは、データ・ファイルYの上で、エディタである自分のアプリケーション131bにおいて作業している800。従業員Aは、やはりエディタであるアプリケーション131aを始動させて801、自分のコンピュータ上でアクティブなアプリケーションにする。エディタ131aは、アプリケーション・フレームワークを介して、遭遇プロキシ・オブジェクト135aに、エディタ131aがアクティブであることを告げる803。遭遇プロキシ・オブジェクト135aは、状態メッセージを、遭遇サーバ141aに送り807、エディタ131aがアクティブであることを示す。状態メッセージは、エディタ131aの名前と、ゼロの位置と、エディタ131aに関連する一致オブジェクト133aへのハンドルを含む。この位置は、従業員Aは編集するデータ・ファイルをまだ選択していないので、当初は、ゼロ（ヌル）である。位置がゼロであることは、従業員Aが、その時点では他のどの従業員ともタスク近接ではあり得ず、従って、従業員Aは、他のどの従業員のエンカウンタ・ウィンドウ143にも現れず、また、他のどの従業員も従業員Aのエンカウンタ・ウィンドウ143aに現れないことを示している。一致オブジェクト133へのハンドルは、サーバ141aを有するオブジェクトを登録するのに用いられる。

【0078】遭遇サーバ141aは、エディタの名前、一致オブジェクト133a、及び従業員Aの位置を含むエディタ131に対するハンドルを、状態メッセージ812aとして記憶する809。ひとりの従業員は、アクティブなアプリケーションは、一度に1つしかもてないので、この情報は、従業員Aの現在のアプリケーション及び位置を記述している。従業員Aの遭遇サーバ141aは、メッセージを、エンカウンタ・ウィンドウ143aに送り811、従業員Aの現在の位置を示す。位置がゼロであるので、他の従業員のタスク近接性を判断するために一致オブジェクトを生じさせる必要はなく、従って、エンカウンタ・ウィンドウ143aは、すべての現在のアイコン22又は他の従業員をクリアする。一致オブジェクト133aのハンドルを記憶することによって、141aは、結果的に、そのオブジェクトを生じさせて、従業員Aとそれ以外の従業員との間のタスク近接性を判断する。

【0079】遭遇サーバ141aは、また、ネットワーク上のすべての他の遭遇サーバ141に状態メッセージを、マルチキャストする813。この状態メッセージは、従業員Aのパーソン・オブジェクト137aへのハ

ンドルと、従業員Aのコンピュータである遭遇サーバ141aを実行するコンピュータのための識別番号と、遭遇サーバ141aによって生成されたタイムスタンプと、エディタ131aの名前と、ゼロである従業員Aの位置と、を含む。

【0080】従業員Bの遭遇サーバ141bはこの状態メッセージを受け取る。この遭遇サーバ141bは、その記憶された状態メッセージ812bをサーチして815、従業員Aのハンドル、及び、先に受け取った状態メッセージへの従業員Aのマシン識別番号と一致するように試みる。これらの記憶されたメッセージは、従業員Bが位置Yにいることを示す状態メッセージを含む。先に記憶された状態メッセージが存在する場合には、これは、従業員Aは、過去のある時点で従業員Bとタスク近接であったことを示す。従って、遭遇サーバ141bは、更に、エンカウンタ・ウィンドウ143bが、アイコン又はそれ以外のイメージなどの従業員Aの表現を表示しているかどうかを判断する。そうであれば、遭遇サーバ141bは、メッセージをエンカウンタ・ウィンドウ143bに送り、従業員Aの表現を除去するが、これは、従業員Aのゼロの位置のためであり、従業員Aは、従業員Bが何をしているかとは関係なく、もはや従業員Bとはタスク近接でない。先に記憶されたメッセージが存在しなかった場合には、エンカウンタ・ウィンドウ143bは、更新される必要がない。

【0081】エンカウンタ・ウィンドウ143bは、従業員Aに対するメッセージを記憶し819、従業員Aに関する任意の先の状態メッセージに代える。従業員Aの現在の位置はゼロであるから、従業員Aが従業員Bに対してタスク近接であるかどうかを判断する必要がない。

【0082】従業員Aは、次に、データ・ファイルXをロードして、その編集を開始する。従業員Aのエディタ131aは、メッセージをその遭遇プロキシ・オブジェクト135に送り803、位置の変化を示す。この例においては、エディタ131は、所定の時間周期を用い、データ・ファイルの一致（ID）に基づいて、タスク近接性を判断する。ここでは、エディタ131の内部での機能の一致は、要求されない。この例では、次に、エディタ131aからの遭遇プロキシ・オブジェクト135aへのメッセージは、データ・ファイルXに基づく新たな位置を示し、この位置は、「位置X」と称される。他の実施例では、エディタ131又は他のアプリケーションが用いている機能は、この位置に含まれる。

【0083】遭遇プロキシ・オブジェクト135aは、現在の位置Xを有する状態メッセージとエディタ131aの名前とを遭遇サーバ141aに送る807。遭遇サーバ141aは、その記憶されたメッセージ812aをサーチして805、より限定されたタスク近接機能のために、エディタ131aと同一のアプリケーション・タイプ又はアプリケーション・ネームを示すメッセージ

が、存在するかどうかを判断する。同じアプリケーション・タイプ/ネームを有する状態メッセージが見いだされた場合には、遭遇サーバ141aは、一致オブジェクト133aを生じさせて821、見いだされた状態メッセージに関連する従業員の位置が従業員Aの位置である位置Xと同じであるかどうかを判断する。遭遇サーバ141aは、見いだされた状態メッセージから取られた他の従業員の位置に送られる。

【0084】この場合には、遭遇サーバ141aは、(先に受け取られた)状態メッセージを見つけるが、このメッセージは、従業員Bもまたエディタ131bを用いているが、データ・ファイルYと共にであり、従って、位置Yにおいてであることを示している。再び、これらの複数のエディタは、同じネームと同じタイプを有することになる。一致オブジェクト133aは、従業員Aの現在の位置である位置Xにアクセスするが、この理由は、これが、エディタ131aに関連しているからである。一致オブジェクト131aは、位置Xと位置Yとが同じではないことを判断し、タスク近接のフラグをそのように指示するように戻す823。従って、従業員Bは、この時点では、エンカウンタ・ウィンドウ143aには現れず、従業員Aもエンカウンタ・ウィンドウ143bには現れない。

【0085】遭遇サーバ141aは、従業員Aの現在の位置を示す状態メッセージを送る813。再び、この状態メッセージは、従業員Aのパーソン・オブジェクト137aへのハンドルと、従業員のコンピュータの識別番号と、タイムスタンプと、エディタ141aのネームと、位置Xとを含む。遭遇サーバ131bがこのメッセージを受け取り、従業員Aに対する先の状態メッセージを、現在のものと代える。従業員Aに対する先の位置は、ゼロであるから、エンカウンタ・ウィンドウ143aを更新する必要はない。

【0086】遭遇サーバ141bは、新たな状態メッセージ及びその中で特定されるアプリケーション・タイプ/ネームを、現在のアプリケーション・タイプ/ネーム、ここではエディタ131bと比較する。これらの一致と遭遇サーバ141bとは、エディタ131bに関連する一致オブジェクト133bを生じさせ、受け取った状態メッセージから位置Xに送る。一致オブジェクト133bは、位置X及び位置Yの位置を比較し、一致がないことを判断し、そのように、遭遇サーバ141bに告知する。従って、従業員Bのエンカウンタ・ウィンドウ143bを更新する必要はない。

【0087】従業員Aは、次に、データ・ファイルYをロードする。再び、エディタ131aは、その遭遇プロキシ・オブジェクト135aに、新たな位置である位置Yを知らせ、遭遇プロキシ・オブジェクト135aは、位置情報を有する状態メッセージを、遭遇サーバ141aに送る。遭遇サーバ141aがその記憶されたメッセ

ージをサーチする805と、遭遇サーバ141aは、従業員Bもまたエディタ131を用いていることを示すメッセージを識別する。遭遇サーバ141aは、一致オブジェクト133aを生じ821、これにより、従業員Bの位置Yが従業員Aの位置Yと一致することが判断され、タスク近接フラグをこの効果に戻す。遭遇サーバ141aは、従業員Bのパーソン・オブジェクト・クライアントへのハンドルと表現(アイコンなど)とを有するメッセージを、エンカウンタ・ウィンドウ143aに送り811、このエンカウンタ・ウィンドウ143aが、表現を表示する。従業員Aは、これで、従業員Bが自分に対してタスク近接であることがわかる。状態メッセージに含まれるタイムスタンプは、エンカウンタ・ウィンドウ143aによって用いられ、従業員B又はそれ以外の者の表現の現れの順序を付ける。

【0088】遭遇サーバ141aは、従業員Aの現在の位置Yを有する状態メッセージを、他の遭遇サーバ141に、送る813。遭遇サーバ141bは、このメッセージを受け取り、それを、先に記憶された、メッセージと比較して815、このメッセージを、従業員Bの位置を特定する先の状態メッセージからの位置と共に、一致オブジェクト133bに送る。この一致オブジェクト133bは、また、従業員A及びBの位置を、タスク近接であるとして、一致させる。遭遇サーバ141bは、従業員Aのパーソン・オブジェクト・クライアント137aへのハンドルとアイコンと共に、メッセージをエンカウンタ・ウィンドウ143bに送り、従業員Bのエンカウンタ・ウィンドウ143bは、従業員Aの表現を用いて、それ自身を更新する。

【0089】従業員Aが従業員Bと交流することを望む場合には、従業員Aは、エンカウンタ・ウィンドウ143上のボタンの中の1つ又は従業員Bのビジネス・カードを用いて、テレビ会議などの通信メカニズムを開始させることができる。遭遇サーバ141aは、状態メッセージの中に、従業員Bへのオブジェクト参照と、従業員Bのコンピュータのマシン識別番号とを記憶する。要求されたときには、サーバ141aは、これらの値を用いて、従業員Bのコンピュータの上の通信サービスに接続する。

【0090】ユーザがそのエンカウンタ・ウィンドウ143を閉じたモードにおく場合には、その遭遇サーバ141は、状態メッセージを継続して受け取り813、記憶する。これによって、遭遇サーバ141が、そのメカニズムの現在の状態を維持することが可能になり、それによって、ユーザがそのエンカウンタ・ウィンドウ143を極小又は開いたモードに設定する場合であれば、エンカウンタ・ウィンドウ143を更新する。更に、閉じたモードにある場合には、エンカウンタ・ウィンドウ143は、ユーザに対してゼロの位置を有する状態メッセージを送出し、それによって、ユーザは、どの他のユー

ザに対しても、もはや、タスク近接ではなくなる。従って、他のユーザのエンカウンタ・ウィンドウ143が、更新される。

【0091】ユーザがエンカウンタ・ウィンドウ143を極小モードにおく場合には、遭遇サーバ141は、それが送出する状態メッセージにフラグを追加し、その従業員に対する極小モードを指示する。他の遭遇サーバ141が状態メッセージにおいてこのフラグを受け取る際には、それぞれの遭遇サーバ141は、その関連するエンカウンタ・ウィンドウ143に、特定のユーザに対するこのフラグを知らせる。それぞれのエンカウンタ・ウィンドウ143は、次に、シルエット42などの極小モードの適切な表現を用いて、そのディスプレイを更新する。

【0092】図7を参照すると、好適実施例においては、パーソン・オブジェクト137は、2つの部分から形成される。すなわち、ライトウェイト・クライアント・コンポーネントと、よりヘビーウェイトのサーバ・コンポーネントとである。クライアント・コンポーネントは、アドレスを、サーバ・コンポーネントに提供し、ユーザの表現をキャッシュするなどパフォーマンスを最適化するために種々の動作を行い、エンカウンタ・ウィンドウ143を更新し、通信サービスに接続するために必要な時間を減少させる。パーソン・オブジェクト137を送ることは、一般に、サーバ・コンポーネントのアドレスを送ることから構成される。

【0093】パーソン・オブジェクト・クライアントは、ユーザ、遭遇を意識しているアプリケーション、及びエンカウンタ・ウィンドウ143の間で通信される。パーソン・オブジェクト・クライアントの値、例えばネームが求められる場合には、クライアントは、パーソン・オブジェクト137サーバにアクセスして、次に、値をクライアントに戻し、クライアントがそれを要求側のオブジェクトに与える。従って、エンカウンタ・ウィンドウ143は、それ自身を更新している時には、ローカルなパーソン・オブジェクト137クライアントにおいて利用可能な表現が既にある場合には、パーソン・オブジェクト137のサーバ・コンポーネントから、表現のためのデータを取得する。好適な構成では、パーソン・*

*オブジェクト137クライアントは、不変の（あるいは、ほとんど変化しない）値、例えば、ユーザの名前やアイコン表現などを、キャッシュすることができる。プロセスや振る舞いを実行することに依存する情報、例えば、状況フラグ又は現在の活動レベルは、キャッシュされない。パーソン・オブジェクト137クライアントは、好ましくは、他のオブジェクトに対しては、読み出し動作だけを提供し、そのようなオブジェクトが値を更新することを許容しない。パーソン・オブジェクト137サーバは、それが表している人間によって制御され、この人間は、適切なインターフェースを通じて、サーバ内の値を更新することが許される。

【0094】以上の説明は、例示であり、限定的なものではない。本発明の多くの変更が、この開示に基づけば、当業者には明らかであろう。本発明の範囲は、従って、その均等物の完全な範囲と共に、冒頭の特許請求の範囲を参照して判断されるべきであり、上記の説明には制約されない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例による、開いたモードのコンパクトなフォーマットでの、コンピュータ・ディスプレイ上のエンカウンタ・ウィンドウの図解である。

【図2】タスク空間の図解である。

【図3】開いたモード・フォーマットでのエンカウンタ・ウィンドウの図解である。

【図4】開いたモードの拡張されたフォーマットでのサーチ及びソート・メカニズムを提供するエンカウンタ・ウィンドウの別の実施例の図解である。

【図5】図5a及び図5b共に、極小モードにおけるエンカウンタ・ウィンドウの図解である。

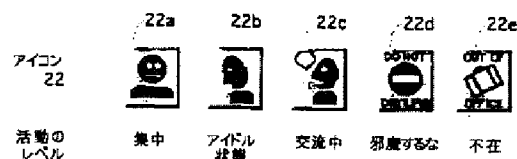
【図6】本発明をサポートするコンピュータ・システムのハードウェア要素のブロック図である。

【図7】本発明のある側面のためのシステム・アーキテクチャのオブジェクト・モデルである。

【図8】エンカウンタ・メカニズムの典型的な振る舞いを図解するイベント・トレースである。

【図9】種々のレベルの利用可能性を図解するアイコンの組である。

【図9】



【図1】

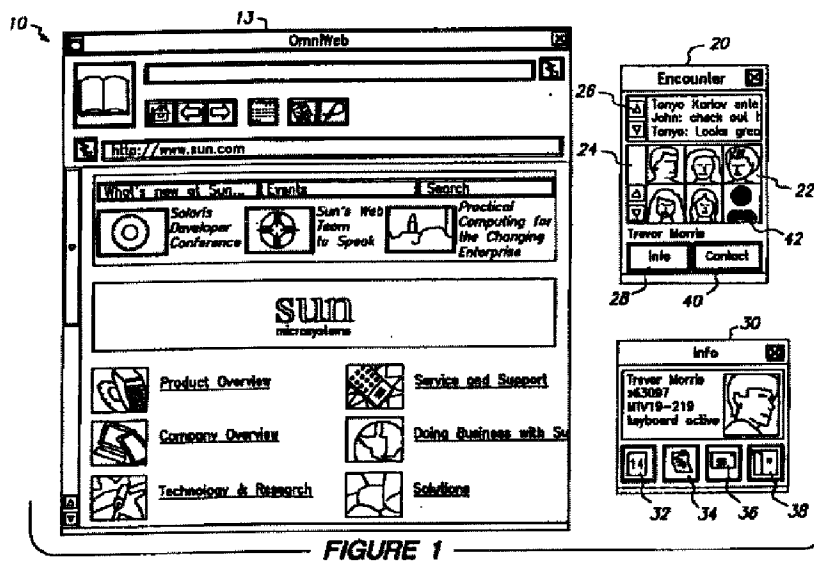
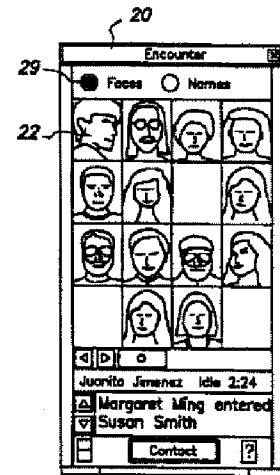
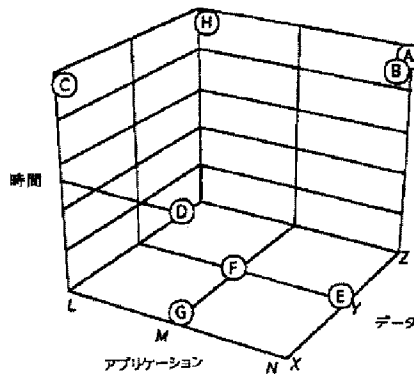


FIGURE 1

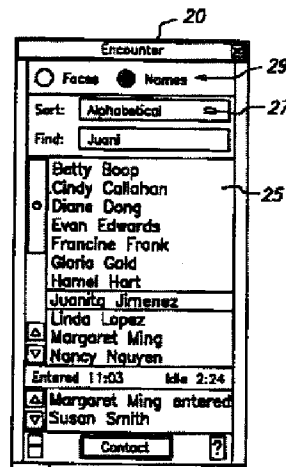
【図3】



【図2】



【図4】



【図5】

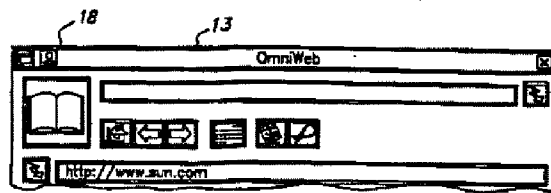


FIGURE 5a

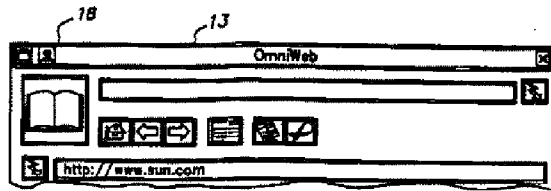
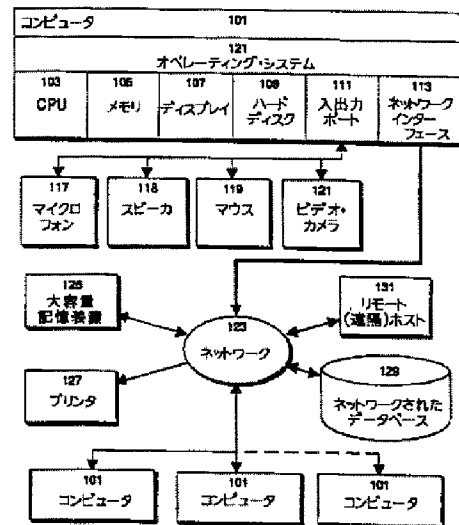
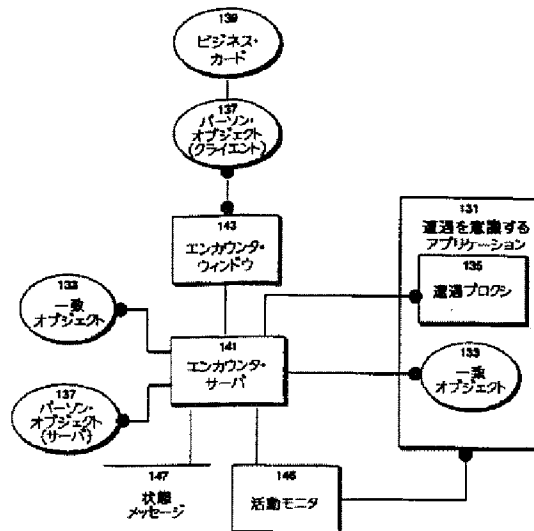


FIGURE 5b

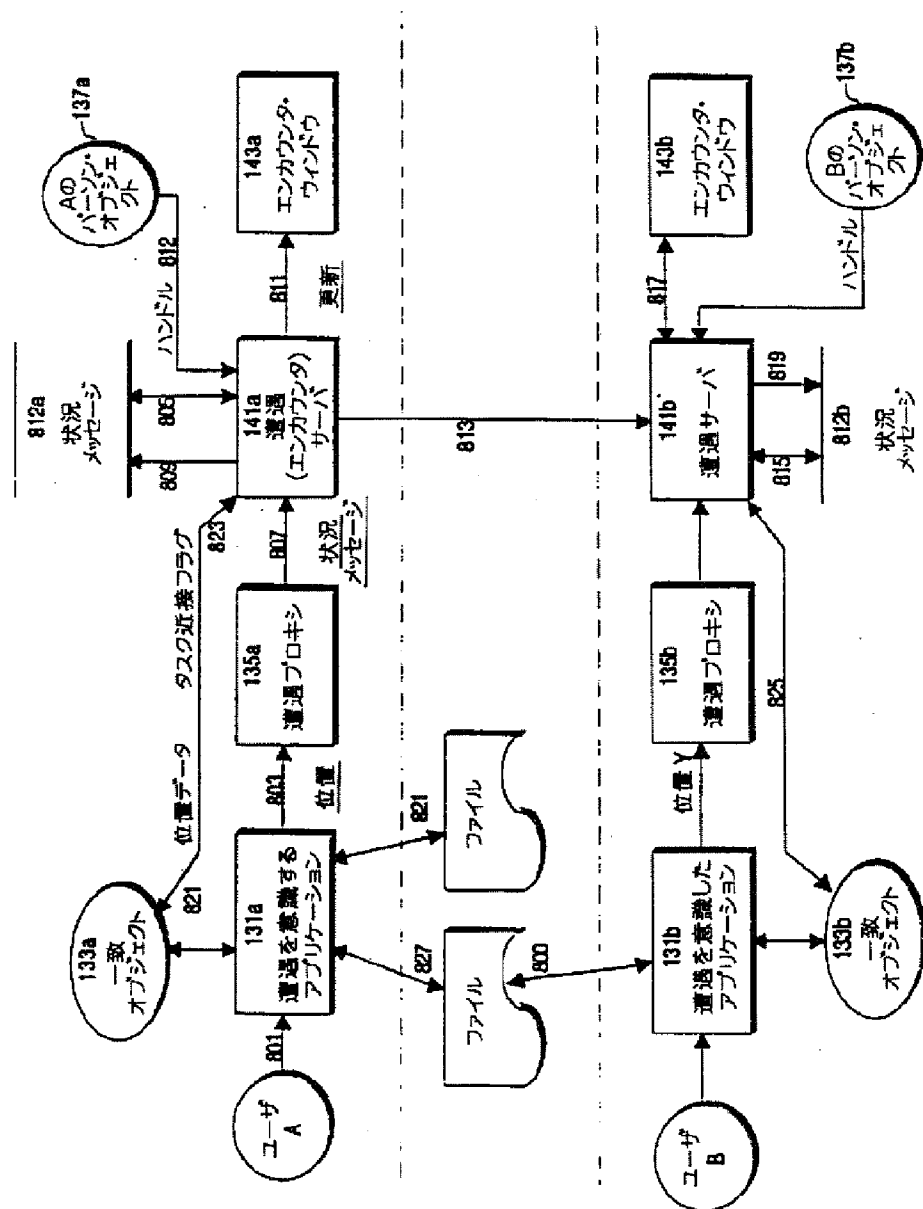
【図6】



【図7】



【図8】



【手続補正書】

【提出日】平成9年4月23日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正内容】

【発明の名称】 コンピュータ業務環境において類似のタスクを行っている他人の認識を可能にするシステム及び方法

フロントページの続き

(71)出願人 597004720
2550 Garcia Avenue, MS
PALI-521, Mountain V
iew, California 94043-
1100, United States of
America
(72)発明者 エレン・アイザックス
アメリカ合衆国カリフォルニア州, サニー
ヴェール (番地なし)
(72)発明者 トレヴァー・モーリス
アメリカ合衆国カリフォルニア州94043,
マウンテン・ビュー, シェアランド・アベ
ニュー 181

(72)発明者 トーマス・ロドリゲス
アメリカ合衆国カリフォルニア州94110,
サンフランシスコ, フォルサム・ストリー
ト 2473
(72)発明者 アラン・ラバーグ
アメリカ合衆国カリフォルニア州94404,
フォスター・シティ, エメラルド・ベイ・
レーン 605
(72)発明者 リック・レヴェンソン
アメリカ合衆国カリフォルニア州94040,
マウンテン・ビュー, ライトウリー・レ
ーン 1873

【外国語明細書】

Title of Invention: SYSTEM AND METHOD ENABLING AWARENESS OF
OTHERS WORKING ON SIMILAR TASKS IN A COMPUTER WORK ENVIRONMENT

Claims

- 1 1. A computer system for a plurality of users and providing to a first user a visual
2 representation of selected second users who are task proximate to the first user, comprising:
3 a plurality of computers, each computer having a plurality of executable applications;
4 one of the plurality of computers being a first computer of a first user, the first
5 computer having a first application accessing a first datum;
6 each of the remaining plurality of computers being a second computer of a second user,
7 each second computer having a second application accessing a second datum; and,
8 the first computer having a first user interface display displaying, for any first
9 application, visual representations of selected second users, the second users each selected
10 according to a first relationship between the first datum and a second datum.
- 1 2. The computer system of claim 1, wherein the first relationship between the first
2 datum and the second datum comprises the first datum being the same as the second datum.
- 1 3. The computer system of claim 2, wherein the first relationship between the first
2 datum and the second datum further comprises the first application accessing the first datum within
3 a determined length of time from the second application accessing the second datum.
- 1 4. The computer system of claim 2, wherein the first relationship between the first
2 datum and the second datum further comprises the first application accessing the first datum at a
3 substantially same time that the second application accesses the second datum.
- 1 5. The computer system of claim 1, wherein each application has a type, each second
2 user is further selected according to a second relationship between the type of the first application
3 being used by the first user, and the type of a second application being used by the second user.

Case 2115

Enabling Awareness: Encounter

1 6. The computer system of claim 5, wherein the second relationship comprises the
2 first application having a same application type as the second application.

1 7. The computer system of claim 1, wherein each second user is further selected
2 according to the first application being used by the first user being the same as a second application
3 being used by the second user.

1 8. The computer system of claim 1, wherein the first datum is a first data file stored in
2 a first file directory, and the second datum is a second data file stored in a second file directory,
3 and the first relationship further comprises the first file directory being the same as the second file
4 directory.

1 9. The computer system of claim 1, further comprising:
2 for each selected second user, the second computer of the second user having a second
3 user interface display displaying a visual representation of the first user.

1 10. The computer system of claim 1 wherein:
2 each computer includes at least one functional component adapted to compare the datum
3 associated with each of two users, and provide in response thereto a signal indicating
4 whether the data has the first relationship.

1 11. The computer system of claim 10, wherein the functional component is further
2 adapted to compare an application type of a first application with an application type of a second
3 application, and provide in response thereto the signal indicating whether the first and second
4 applications are of a same type.

1 12. The computer system of claim 1, wherein a visual representation of a second user is
2 added to the first user interface display at substantially the same time as when the first user
3 becomes task proximate to the second user according to the first relationship, and wherein a visual
4 representation of a second user is removed from the user interface display at substantially the same
5 time that the first user is determined to no longer be task proximate to the second user according to
6 the first relationship.

1 13. A computer system for a plurality of users and providing to a first user a visual
2 representation of selected second users, comprising:

3 a plurality of computers, each computer having a plurality of executable applications,
4 each application having a type;

5 one of the plurality of computers being a first computer of a first user, the first
6 computer having a first application accessing a first datum at a first time;

7 each of the remaining plurality of computers being a second computer of a second user,
8 each second computer having a second application accessing a second datum at a second
9 time; and,

10 the first computer having a first user interface display displaying, for any first
11 application and any first datum, visual representations of selected second users who are
12 task proximate to the first user, where each selected second user is individually determined
13 to be task proximate to the first user according to at least one relationship from a group
14 comprising:

15 a first relationship between the first datum and the second datum;

16 a second relationship between a type of the first application and a type of the second
17 application; and,

18 a third relationship between the first time and the second time.

1 14. The computer system of claim 13, wherein a first user is task proximate to a second
2 user where in the first relationship:
3 the first datum is the same as the second datum.

1 15. The computer system of claim 13, wherein a first user is task proximate to a second
2 user where in the second relationship:
3 the type of the first application is the same as the type of the second application.

1 16. The computer system of claim 13, wherein a first user is task proximate to a second
2 user where in the third relationship:
3 the first time at which the first user uses the first application is within a predetermined
4 length of time to a second time the second user uses the second application.

1 17. The computer system of claim 13, wherein the user interface display includes a
2 first mode of operation that provides a first visual representation for all second users who are task
3 proximate to the first user, and a second visual representation when no other users are task
4 proximate to the first user.

1 18. The computer system of claim 17, wherein:
2 the user interface display of the first computer further includes a second mode of
3 operation that provides only a visual representation of whether or not at least one second
4 user is task proximate to the first user; and,
5 the user interface display of each second computer displays a visual representation of
6 the first user indicating that the user interface display of the first computer is in the second
7 mode of operation.

- 1 19. The computer system of claim 13, further comprising:
2 a second computer of a second user, the second computer having a user interface
3 display including a visual representation of the first user where the first user is task
4 proximate to the second user, and the visual representation of the first user is a function of
5 a display mode of the user interface display of the first computer.
- 1 20. The computer system of claim 13, further comprising a communication mechanism
2 allowing the first user to initiate a communication to a second user represented by a visual
3 representation in the user interface display.
- 1 21. The user interface of claim 13, wherein there is provided a first aural indication each
2 time a second user becomes task proximate to the first user, and a second aural indication each time
3 a second user becomes no longer task proximate to the first user.
- 1 22. The computer system of claim 13, wherein each computer further comprises:
2 at least one application capable of providing a message specifying a position including a
3 datum that a user is accessing at a selected time, the message provided by an active
4 application at about the time the user changes their position; and,
5 at least one match object that compares a first position of a first user and a second
6 position of a second user, and provides a signal indicating whether the first and second
7 users are task proximate to each other, where the first position includes the first datum, the
8 first application, and the first time, and the second position includes the second datum, the
9 second application, and the second time.

1 23. The computer system of claim 22, further comprising:
2 a plurality of person objects, each person object uniquely associated with a user of the
3 computer system, each person object having a visual representation capable of being
4 displayed in the user interface displays.

1 24. The computer system of any of the preceding claims, wherein the visual
2 representation of each selected second users is periodically updated to indicate a current level of
3 availability of the second user.